AIM
AIM TECH Co.,Ltd

液化石油ガス用 電気式ダイヤフラム式自記圧力計

ガス・リーク・テスター セーバープロⅡ

財団法人 日本エルピーガス機器検査協会（LIA）検査合格品

GLT-SPLP1

Gas Leak Tester

SAVER PRO Ⅱ

取扱説明書

セーバープロⅡはあなたの大切なパートナーです。
精密機械ですので取り扱いには十分注意しましょう。

⚠ 本製品使用上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に
必ず「取扱説明書」をよくお読みください。

Ver1.2

株式会社エイムテック

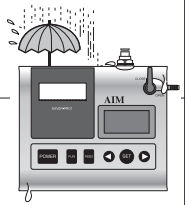
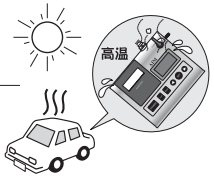
⚠ 安全に対する注意事項

重要なお知らせ　本取扱説明書中の記号について

本製品を安全にお使いいただき、思わぬ事故や故障を防ぐために注意する事項を重要度によって、次の記号で表しています。

重要度	記号	注意事項の範囲
1	⚠ 危険	感電など人体に危険が及ぶ恐れがある場合
2	⚠ 警告	本製品の故障や事故が十分に予測できる場合
3	⚠ 注意	本製品が思わぬ事態になる恐れがある場合

記号	注意事項の範囲
⊘	一般的な禁止を示す表示です
❗	ご使用者に実施していただくことを指示する表示です

⚠ 危険	**保管時・使用時などで、本体に強い衝撃を加えたり、重いものを載せたりしないこと。（投げたり、叩いたりしないこと）** 本体ケース・液晶ディスプレイ及び内部電子部品が破損し、感電・ショート・発火の原因になります。 	⊘ 禁止
⚠ 危険	**防爆について** 本製品は、本質安全防爆精造ではありませんので、必ず「非危険場所」でご使用ください。	⊘ 禁止
⚠ 危険	**電池を交換する時は、「非危険場所」で行うこと。** ガスが停留している箇所での交換を行わないこと。爆発の可能性があります。	⊘ 禁止
⚠ 危険	**分解や改造しないこと。** 本体の故障、感電の原因になります。	⊘ 禁止
⚠ 危険	**水濡れ注意!雨の降っている環境では使用しないでください。** 本体を水につけたり、水をかけたりしないこと。 本体の故障、感電、ショートの原因になります。 	⊘ 禁止
⚠ 危険	**配管内の残ガスを排気バルブで抜かないこと。** 配管内の残ガスはそのまま抜いたり、排気バルブで抜くと爆発の可能性があります。必ずコンロなどで燃焼させてください。	⊘ 禁止
⚠ 警告	**高温・多湿の場所で保管しないこと。特に高温になる閉切った車内での保管は避けましょう。** 夏場での車内は、高温になりますので注意してください。 本体内部は電子部品なので、内部回路の破損につながることがあります。 	⊘ 禁止
⚠ 警告	**使用する電池の種類を確認すること。** 単三アルカリ乾電池を使用してください。 マンガン乾電池は使用不可。	❗ 確認
⚠ 警告	**電池を交換する時は、全て新しい電池と交換すること。** 種類・メーカー違いの電池を混ぜないこと。電池自身の特性が満たされないばかりか、液漏れ等による故障、ケガの原因になります。	❗ 確認

注意	電池交換の際は、電源を切ってから行うこと。 内部回路の破壊につながることがあります。	確認
注意	「!バッテリー交換が必要です。」の表示のあと、長時間使用しないこと。 電池電圧不足の為、動作が停止することがあります。 新しい電池に交換してください。	確認
注意	「!バックアップ電池の交換が必要です。」の表示が出たら 弊社ユーザーサポートへご連絡ください。 内部のバックアップ電池を交換する必要があります。 そのまま使用を続けられると内部データを消失してしまいます。	実施
注意	操作キーを先の尖った物で押さないこと。 操作キーのシートが破損します。	禁止
注意	本体の汚れを有機溶剤で落とさないこと。 本体ケース等の変色及び変形が生じることがあります。 本体が汚れた場合は、乾いた柔らかい布で拭き取って下さい。	禁止
注意	冷風・温風等、温度変化をもたらす場所での計測はしないでください。 加圧する空気自体が温度影響を受けると確実な計測ができません。	確認
注意	計測中は、配管やガスメータなどに触らない・近づかないこと。 たいへん高い精度で温度影響を測定していますので計測環境に注意しましょう。	実施
注意	本体自体が温度影響を受けた場合、自動補正しますが、高温・低温に なりすぎると正常に機能しない場合があります。 仕様の温度範囲内でご使用下さい。	実施
注意	計測ホースや本体のホース接続口に、ごみや水分が入らないよう 取扱いや保管には注意してください。	実施
注意	保管時にはパソコン接続ケーブルは外して保管してください。 （パソコン転送タイプのみ） ケーブル・コネクターの破損の原因になります。	実施
注意	気密試験を行なう際は、燃焼器具を含めて計測をしないで下さい。 4.2kPa以上の加圧値で設定した場合、高い圧力により燃焼器具が故障する原因になります。	実施

目　次

安全に対する注意事項
（本取扱説明書の記号について）…… 1

目次…… 3

ご使用になる前にお読みください。…… 5
準備1：付属品を確かめる
準備2：乾電池を組み込む
準備3：初期設定をしましょう
準備4：ロール紙をセットしましょう

自動計測の操作フロー……7

正しい試験方法を今一度確認し、確実な検査を！… 8
漏えい試験 例示基準
気密試験 例示基準

漏えい判断の方法…… 9

大きな配管における
漏えい・気密試験について…… 9

圧力校正に関して…… 10
各部の名称…… 11

確認事項 知っておきましょう……12
漏えい試験時の加圧値について
パソコンへのデータ転送は、毎日しましょう

機能（画面メニューツリー）…… 13

1.操作方法
基本的な使い方
1-1メインメニュー画面…… 16
1-2自動計測…… 16
1-2-1　試験時間の設定……16
1-2-2　大気圧ゼロ点調整…… 17
1-2-3　温度による試験への影響判定‥ 18
1-2-4　漏えい試験圧力への加圧…… 19
1-2-5　供給ガスでの計測…… 20
1-2-6　漏洩試験……21
1-2-7　温度による試験への影響再判定　23
1-2-8　漏洩試験結果表示…… 24
1-2-9　調整器圧力検査前の再減圧…… 25
1-2-10 ガス圧計測…… 26
1-2-11 調整圧計測…… 27
1-2-12 閉そく圧計測…… 28
1-2-13 燃焼器の入口圧計測…… 29
1-2-14 自動計測結果表示…… 30
1-2-15 計測結果登録画面…… 32
1-2-16 終了画面…… 34

進んだ使い方
1-3手動計測…… 35
1-3-1　漏洩試験…… 35
1-3-2　気密試験…… 36
1-3-2-1 大気圧ゼロ点調整…… 36

1-3-2-2 温度による試験への影響判定 37
1-3-2-3 気密試験・・・・・・・・・・・・・・・・・39
1-3-2-4 温度による試験への影響再判定 40
1-3-2-5 気密試験計測結果表示・・・・・41
1-3-3 調整器圧力検査・・・・・・・・・・・・・・・42
1-3-4 手動設定計測・・・・・・・・・・・・・・・・42
1-3-5 現在の圧力計測・・・・・・・・・・・・・・・43

その他
1-4登録一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
1-5機器の設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
1-5-1 検査条件設定・・・・・・・・・・・・・・・・・45
1-5-2 機器のゼロ点・・・・・・・・・・・・・・・・・45
1-5-3 圧力校正・・・・・・・・・・・・・・・・・・・46
1-5-4 カレンダー設定・・・・・・・・・・・・・・・49
1-6機器の状態・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・49

2.セーバープロⅡの日常/定期点検要項・・50
日常点検表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
定期点検表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52

3.セーバープロデータ管理システムについて 53
メニュー画面・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・53
①データを転送する為の準備・・・・・・・・ 54
②データ管理ソフトの起動・・・・・・・・・・・・ 55
③環境設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・56
④セーバープロⅠ・Ⅱからのデータ受信 57
⑤データ一覧の機能・・・・・・・・・・・・・・・・・58
⑤-1販売店(地域又はその他)の入力 58
⑤-2グラフ表示・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58
⑤-3削除指示・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・60
⑤-4グループ抽出・・・・・・・・・・・・・・・・・60
⑤-5登録名検索・・・・・・・・・・・・・・・・・・61
⑥メンテナンス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・62
⑥-1月次データ作成・・・・・・・・・・・・・ 62
⑥-2エキスポート・・・・・・・・・・・・・・・・ 63
⑥-3インポート・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64
⑥-4データ削除・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65
⑦グループ登録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・66
⑧終了・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・67

4.困った時！こんな場合は？・・・・・・・・・・・・68

保証書とアフターサービス・・・・・・・・・・ **裏表紙**
主な仕様・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・**裏表紙**

ご使用になる前にお読みください。

準備1：付属品を確かめる

箱から出したら、付属品がそろっているか確認してください。

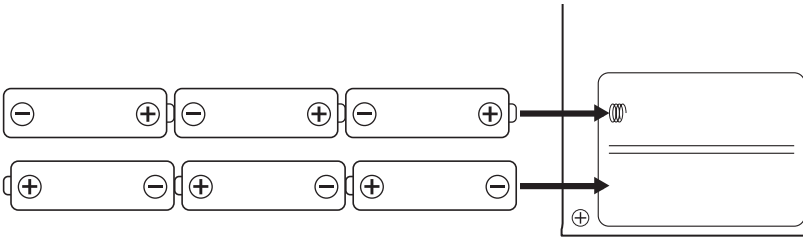
■セーバープロⅡ本体 ［1］
■両端迅速継手式検知ホース ［1］
■単三アルカリ乾電池 ［6］
■取扱説明書 ［1］
■保証書/ユーザー登録書 ［1］
■単球式手動ポンプ ［1］

［ ］内の数字は付属品の数量です。

オプション品
■セーバープロデータ管理システムソフト
■パソコン接続ケーブル
■プリンタ用専用ロール紙
■専用ナイロン製バック
■専用アルミケース
■加圧アタッチメント

準備2：乾電池を組み込む

お買上げ時には、付属の単三アルカリ乾電池を本体の電池ボックス内へ組み込んでください。



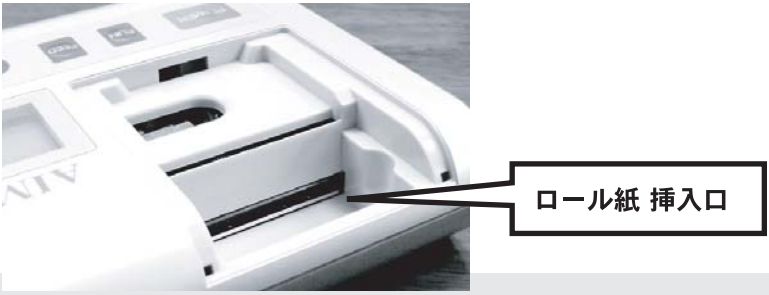
注意 ●電池の向きに注意して組み込んでください。

準備3：初期設定をしましょう

<P45／1-5-1>検査条件設定を参照して設定を行って下さい。

準備4:ロール紙をセットしましょう。

1）セーバープロⅡの電源を入れます。
2）プリンタのカバーを上方へスライドさせ、カバーを開けます。
3）使用していたロール紙が残っている場合には、引き抜いて下さい。
4）新しいロール紙の先端を挿入口に入れ、「FEED」ボタンを押しながら、紙送りを行ってください。



5）この際、下記のようにプリント開始位置をあわせます。

点線のように、プリンタカバーのペーパーカッター部にロール紙の点線をあわせます。
※カット範囲内で切り取ると、検査表示結果枠内に印字が収まります。

6）ロール紙を本体のロール紙収納部に収めてください。
7）カバーを閉じ、余分なロール紙をカットします。

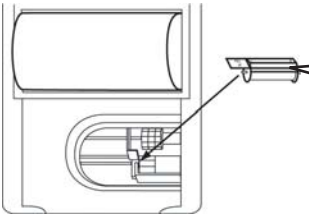
ご参考までに
●ロール紙は必ずセーバープロⅡの専用ロール紙をご使用下さい。
●ロール紙に印字してある試験結果項目と印刷の位置がずれた場合には、ロール紙のセット方法5）のように、プリント開始位置を再度あわせてください。「FEED」ボタンでの位置あわせが困難な場合は、ロール紙を手で引っ張って調整を行ってください。
●ロール紙の端に赤色のラインが見えてきたら、ロール紙の終わりが近付いています。新しいロール紙と交換してください。
●ロール紙1本で、最大65件分のプリントアウトができます。

準備5:インクロールを取り付けましょう

※出荷時には既にインクロールが取り付けられております。次回インクロール交換時にご参照下さい。

1）セーバープロⅡの電源をOFFにします。
2）プリンタのカバーを上方へスライドさせ、カバーを開けます。
3）インクロールの「PULL UP」と書かれているツマミを持ち上げ、本体から取り外します。
4）新しいインクロールを軸に合わせるようにはめ込み、「カチッ」と音がするまで挿入します。

〈本体内部図〉



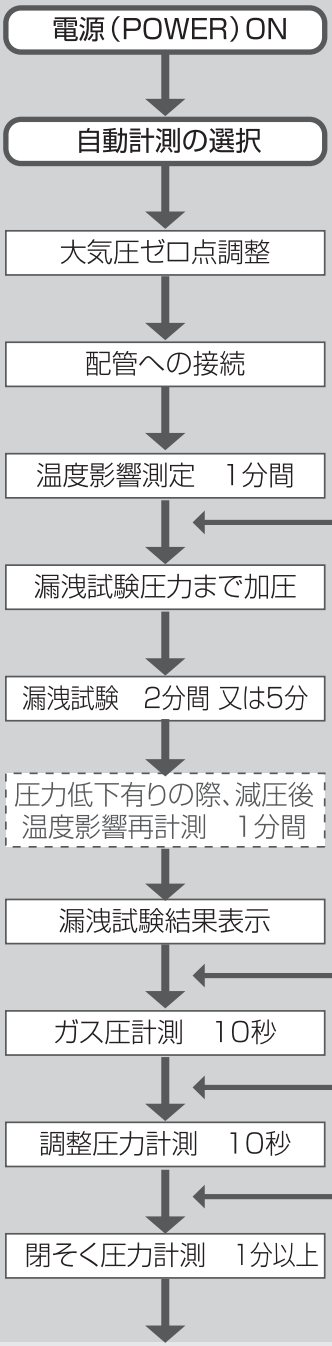
〈インクロール〉
矢印部分の本体の窪みにインクロールの軸を合わせてはめ込みます。

5）プリンタのカバーを閉じ、ロール紙がプリントアウトできるようセットします。

ご参考までに
●インクロールは必ずセーバープロⅡの専用のインクロールをご使用下さい。
●インクロール交換時に、誤って本体内部にインクロールが落ち込んだ場合には、本体内部を分解せずに弊社ユーザーサポートへご相談ください。
●ロール紙の印字が薄く感じられたらインクロールの寿命が近付いています。新しいインクロールと交換してください。

自動計測の操作フロー

（操作方法の詳細については<P16／P1-2自動計測>をご参照ください。）



機器の状態を確認して下さい。

メインメニュー画面で選択して下さい。

ボンベ側のガス栓を閉じて点検口へ計測ホースを接続。
配管内の残ガスは燃焼器に点火して0kPaまで減圧。

温度影響有りの場合、排気バルブを開いて減圧

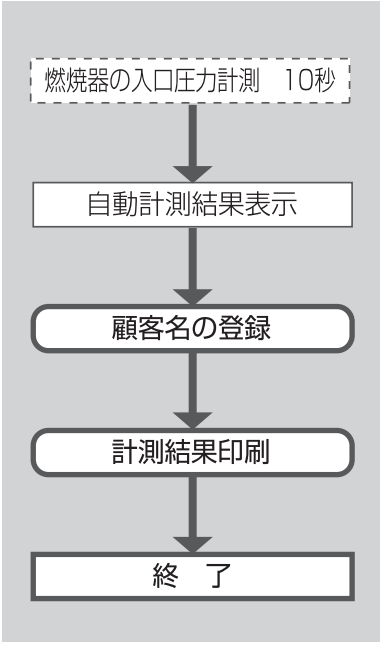
単球式手動ポンプを使用して加圧するか、配管内に
ガスを供給して、ガス圧で計測する。

漏えい試験で圧力低下が有った場合及び5分計測の場合
温度影響を再計測。ガス圧で計測した場合、残ガスは燃焼器に
点火して減圧の事。

ボンベ側のガス栓を開きガスを供給

燃焼器具に点火

燃焼器具の消火



検査条件設定で調整器設定を[例示]に選択されている場合は燃焼器の入口圧力を計測。燃焼器入口近くの点検口へセーバープロⅡを再接続し、燃焼器具へ再点火。

計測途中又は結果で漏れや、調整器の異常があっても、最後まで検査を続け、登録まで行って下さい。

正しい試験方法を今一度確認し、確実な検査を!

■「液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法規施行規則」の例示基準にある漏えい試験・気密試験の手順を今一度、ご確認下さい。（下記に一部抜粋）

漏えい試験

充てん容器等のバルブを完全に閉じ、配管内の圧力を安全な方法で大気圧と同じ圧力に減圧した後、低圧部を空気又は液化石油ガスにより使用圧力以上5.5kPa未満の圧力に加圧する。電気式ダイヤフラム式自記圧力計又は電気式ダイヤフラム式圧力計を用いる場合にあっては、この状態を5分間（当該配管等の内容積が10ℓ以下の場合にあっては2分間）以上保持し、圧力降下を測定する。これにより測定した結果、圧力に変動ないものを合格とする。この場合、圧力の変動がないものとは、漏えい試験の始めと終わりとの測定圧力差（漏えい試験の始めと終わりに温度差がある場合は温度補正したものをいう。）が圧力測定器具の許容誤差内にあるものをいう。

気密試験

ガス栓を閉じ、圧力発生器具又は設備を使用して、当該供給管等の内部に徐々に圧力を加え、8.4kPa以上10kPa以下の圧力になるまで加圧した後、圧力発生器具又は設備と供給管等との間の弁を閉じ、圧力発生器具又は設備を取り外す。電気式ダイヤフラム式自記圧力計を用いて気密試験を行う場合は、この状態を10ℓを超え50ℓ以下は5分間（当該配管等の内容積が10ℓ以下の場合にあっては2分間）保持し圧力の変動を圧力測定器具により測定する。これにより測定した結果、圧力に変動がないものを合格とする。この場合、圧力に変動がないものとは、気密試験の始めと終わりとの測定圧力差（気密試験の始めと終わりに温度差がある場合は温度補正をしたものをいう。）が圧力測定器具の許容誤差内にあるものをいう。

■漏えい判断の方法

※[ ]は画面表示される文字です。

■自動計測・手動計測の漏洩試験・気密試験

セーバープロⅡは自動計測、手動計測の漏洩試験・気密試験の結果として、[計測時間] [開始圧力] [終了圧力] 等の表示後に [温度補正後の圧力低下] が数値で表示されます。

[開始圧力][終了圧力][温度補正後の圧力低下]の3項目を総合的に比較しますが、最終的には**[温度補正後の圧力低下]が漏えい判断の目安となります。**

● [温度補正後の圧力低下]

温度補正後の圧力低下表示が0.00kPaの場合は漏えい無しと判断してください。

左の図のようにマイナス(−)の値が表示された場合は漏えいの疑いありと判断してください。

実施 上記の判断で漏洩の疑い(マイナス表示)が出た場合でも、試験を中断せずに最後まで続行して計測結果の登録まで行ってください。(計測を中断した場合、計測したデータは記録として残りません。やむなく中断した場合は計測を最初からやり直してください。)

■大きな配管における漏えい・気密試験について

注意 配管容量が50Lを超える設備で漏洩試験・気密試験を実施される場合、漏えいの判断が難しくなりますので、別途弊社ユーザーサポートまでご相談ください。

圧力校正に関して

液化石油ガス法に基づき、12カ月に1回以上圧力校正を行って下さい。
<1-5-3圧力校正／P46～48>を参照。

※注意!

気密試験には高い精度の圧力計測能力を求められています。圧力校正が正しく行われないと製品本来の能力を発揮できないばかりか、大変危険です。

よって、気密・漏えい試験用セーバープロGLT-SPLP1の圧力校正には、最小目盛0.01kPa以下を表示可能な圧力校正期限内の電気・電子式圧力計（各都道府県の工業試験場などにお問い合せ下さい）、マノメータ、又はこれと同等以上の精度を有する圧力計（セーバープロ）を圧力の比較検査の基準器として校正される事をおすすめ致します。

校正証明書が必要な場合や上記の基準器が無い場合は当社にご相談下さい。
（当社では、有料にて校正サービスも行っております。）

各部の名称

1 セーバープロⅡ本体

2 計測ホース
先端のプラグをガス栓に接続し、各種計測を行います。

3 計測ホース接続口

4 モニター部
計測値等を表示します。

5 プリンタ
計測結果を印字します。

6 加減圧バルブ
レバーをOPENの位置にすると加減圧が可能になります。

7 電源ボタン
本機器の電源ON／OFFボタンです。
2秒長押しで電源が入ります。
4秒長押しで電源が切れます。

8 操作部
メニューの選択、決定等に使用します。

9 ファンクションボタン
他のキーと合わせて使用する事で違う操作が可能となります。

10 フィードボタン
プリンタの紙送り時に使用します。

11 加減圧用ノズル

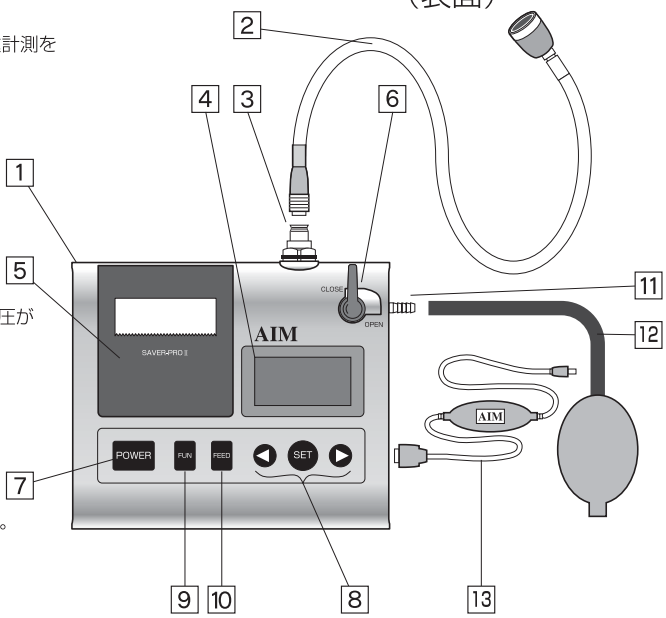
12 単球式手動ポンプ
加減圧用ノズルに接続して使用します。

13 パソコン接続ケーブル（オプション）
パソコンとのデータ送信に使用します。
（パソコン転送機能付タイプを選択された場合に付属します。）

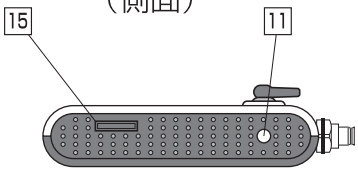
14 電池BOX
単三アルカリ乾電池を6本使用します。

15 パソコン接続ケーブル用接続ジャック
パソコンとのデータ送信時に使用します。
（パソコン転送機能付タイプを選択された場合に有効となります。）

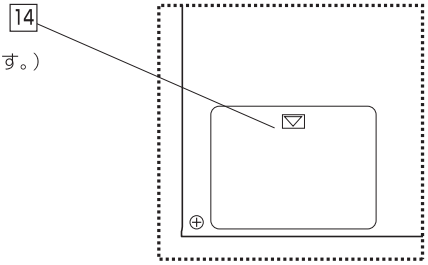
（表面）



（側面）



（裏面）



コントラスト調整機能

FUN を押しながら ▶ を押すと液晶画面表示が濃くなります。

FUN を押しながら ◀ を押すと液晶画面表示が薄くなります。

（計測結果登録、校正値登録、パスワード入力、カレンダー設定画面ではコントラスト調整機能は使えません。）

■漏えい試験時の加圧値について〈自動計測（手動）・漏洩試験（手動）〉

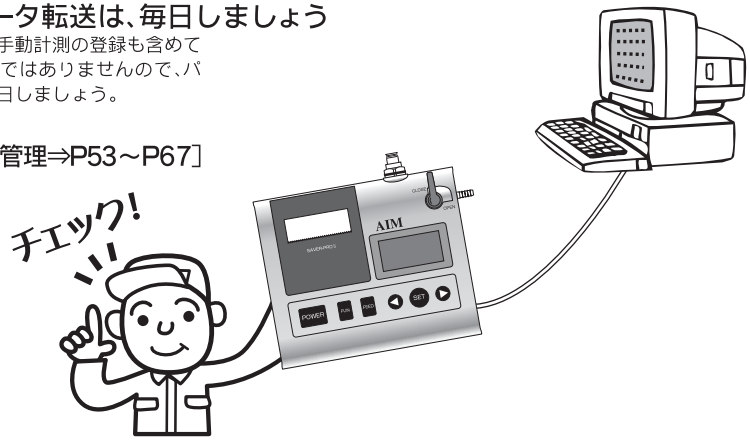
試験基準としては、ガス圧以上5.5kPa未満の加圧値になっております。燃焼機器を含めて漏えい試験を行う場合は、4.2kPa以下で設定してください。4.2kPaを超える加圧値で試験を行うと燃焼器具の故障の原因となります。

また、漏えい試験の精度が最も高い設定は5.4kPa、最も低い設定は2.8kPaです。

■パソコンへのデータ転送は、毎日しましょう

セーバープロ本体の登録は手動計測の登録も含めて25件です。25世帯分の登録ではありませんので、パソコンへのデータ転送は毎日しましょう。

［パソコンでのデータ管理⇒P53～P67］



機　能

メインメニュー

自動計測

一連の流れに沿って、漏えい試験、調整器圧力検査を行う機能です。セーバープロⅡがナビゲーションを行います。液晶画面の指示に従って計測を行ってください。計測時の加圧方法は単球式ポンプでの手動加圧又は供給ガス圧が選択できます。

手動計測

- **漏洩試験**　漏えい試験のみ行います。
- **気密試験**　8.4～10kPaに手動で加圧して検査します。
- **調整器圧力検査**　調整器圧力検査のみを単独に行います。
- **手動設定計測**　最大1時間59分迄の試験時間を任意に設定し、漏えい状況を計測できます。**従来のデジタル式圧力計や機械式自記圧力計と同様な計測が可能です。**
  ※ただし温度補正は行いません。
- **現在の圧力計測**　大気圧ゼロ点調整を行ったあと配管と接続し、配管内の現在の圧力値を表示します。
- **メインメニュー**　メインメニューに戻ります。

登録一覧

（データ選択画面）

- **顧客選択**
- **登録データ**　データ選択画面で選択した登録されている顧客の計測結果情報を表示します。また、内蔵プリンタを用いて計測結果の印字が行えます。
- **データ削除**　〈全件削除〉登録されている顧客の計測結果全情報を削除します。
  〈一件削除〉データ選択画面で選択した登録されている顧客の計測結果情報を削除します。
- **データ転送**　登録されている顧客の計測結果情報をパソコンへデータ転送します。
- **メイン・メニュー**　メインメニューに戻ります。

メインメニュー

機器の設定

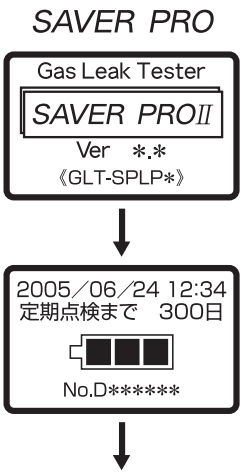
- **検査条件設定**
  〈漏洩試験〉
  加圧方法は単球式ポンプによる手動加圧又は供給ガス圧の2通りの方法から選択可能。
  〈調整器圧力検査〉
  例示基準に基づいた［標準］、［例示］の2通りの方法から選択可能。
- **機器のゼロ点**
  機器のゼロ点補正を行います。
  ※山間部などでは環境の変化で大気圧に違いが出ることがありますので、試験前に設定を行ってください。
- **圧力校正**
  出荷段階で校正してありますが、12ヶ月毎にマノメータ又はこれと同等以上の精度を有する圧力計と比較を行い機器の校正を行ってください。
- **カレンダー設定**
  日時設定を行います。
- **メインメニュー**
  メインメニューに戻ります。

機器の状態

日時、12ヶ月毎の点検予定日、電池残量、製造番号を表示します。

1.操作方法

基本的に操作は、[◄]・[►]ボタンでカーソルを移動させ、[SET]ボタンにて選択・実行します。



オープニング画面

長ブザー1回/ピーッ

ブザー1回/ピッ

機器の状態を確認出来ます。

電源投入 POWER

2秒程度長押しして下さい。

機器の状態確認後セットボタンでメインメニュー画面に移ります。

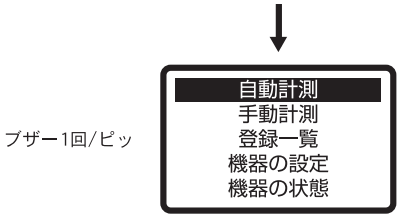
SET

※ご使用前に必ず確認して下さい。

■電源投入時、下記の様な画面が表示をされた場合は「困った時!こんな場合は?」P68を参照してください。

!12ヶ月点検を実施して下さい。 確認	!機器の設定をして下さい。 確認	!メモリー不足です。計測結果の登録ができません。 確認
(おしらせブザー)	(おしらせブザー)	(おしらせブザー)
!バッテリーの交換が必要です。 確認	!バックアップ電池の交換が必要です。 確認	
(おしらせブザー)	(おしらせブザー)	

1-1.メインメニュー画面



実行する項目を選びます。

◀ ▶

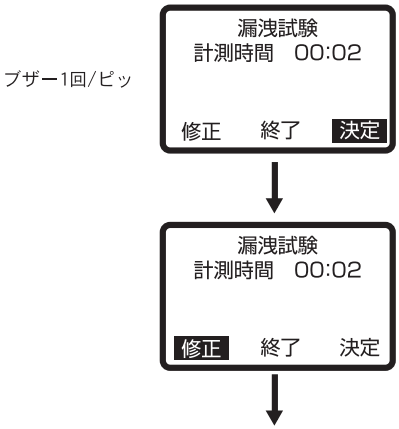
項目を選び SET で決定します。

電源投入時に表示される画面で、このメニューより各計測および設定に移行します。
[◄]または[►]ボタンを押して実行する項目にカーソルを移動させ、[SET]ボタンを押します。

1-2. 自動計測

1-2-1.試験時間の設定

■漏洩試験時間を決定します。(2分又は5分計測)



2分計測であれば

SET

を押して進めます。

5分計測であれば ◀ を押して

修正 を選択し SET を押します。

◀ ▶ を押して試験時間を変更し

SET で決定します。

(02 2分計測 05 5分計測)

1-2-2. 大気圧ゼロ点調整

■現在の大気圧状態を0.00kPaにゼロ点調整します。

ブザー2回/ピッピッ

大気圧ゼロ点調整を
開始します。
!計測ホースを外し
静置して下さい。
戻る　進む

[戻る]:メインメニュー画面へ

[進む]

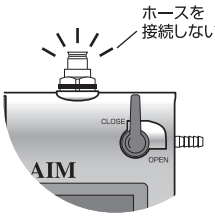
大気圧ゼロ点調整中

待機中

進むを選択し

SET

決定します。



＜計測異常＞

大気圧ゼロ点調整

!エラー

再計測　終了

（おしらせブザー）

[再計測]:大気圧ゼロ点調整を再度行います。
[終了]:メインメニュー画面へ

※10秒間、圧力が安定しないときは、エラーとなります。再度、大気圧ゼロ点調整を行ってください。
※何度もエラーがでる場合はメインメニューに戻り[機器の設定]のゼロ点設定を行ってください。
＜[機器の設定] 機器のゼロ点設定に関して⇒P45／1-5-2＞

1-2-3. 温度による試験への影響判定

■気温の上昇／下降等により、配管内の圧力が影響を受けていないか判定を行います。
計測時間は、1分です。

ブザー2回/ピッピッ

温度影響を判定します
!供給管側のガス栓を
閉止・計測ホースを
接続して下さい。
戻る　進む

[戻る]:大気圧ゼロ点調整へ

ブザー2回/ピッピッ

!残ガスを燃焼させ
大気圧まで減圧して
下さい。バルブを開け
ての減圧は危険です。
戻る　進む

[戻る]:温度影響判定の先頭へ

※減圧完了するとブザーが1回鳴り、温度による試験への影響を判定します。

現在の配管内圧力
<!減圧して下さい。>

圧力　0.01kPa
減圧時間　3.5sec

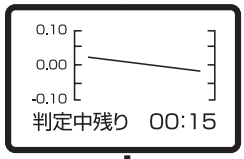
!バルブを
閉止して下さい。

確認

温度による試験への
影響を判定します。

待機中

開始から5秒経過すると自動的にグラフ表示に切り替ります。



切替表示

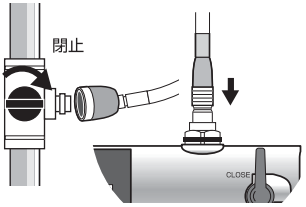
温度による試験への
影響を判定します。

判定中残り　00:15

進むを選択し

SET

決定します。



進むを選択し

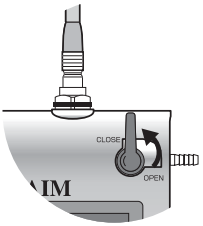
SET

決定します。

本体バルブが
閉じてある事を
確認します。

SET

で進めます。



「FUN」ボタンで

FUN

切替表示できます。

検査条件設定メニューの加圧方法の選択により計測フローが違います。
[手動]に設定されている場合、P19／1-2-4.漏えい試験圧力への加圧へ進む。
[ガス]に設定されている場合、P20／1-2-5.供給ガス圧での計測へ進む。

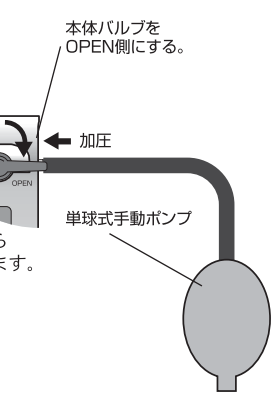
1-2-4. 漏えい試験圧力への加圧

■検査条件設定において漏洩試験時の加圧方法を「手動」に設定されていた場合、
単球式手動ポンプを本体に接続して漏えい試験圧力まで加圧します。

ブザー2回/ピッピッ

バルブを開け
加圧して下さい。

設定　2.8～5.4kPa
加圧中　0.35kPa



圧力が設定圧に達したら
自動的に表示が切替ります。

ブザー1回/ピッ

設定圧までゆっくり
加圧して下さい。

設定　2.8～5.4kPa
加圧中　2.50kPa

圧力が設定圧に達したら
本体バルブを閉じます。

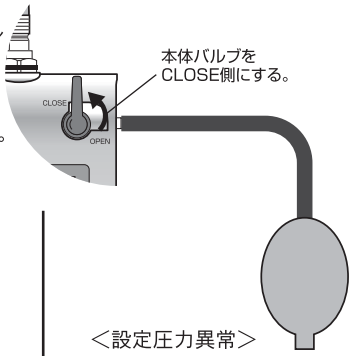
ブザー1回/ピッ

!バルブを
閉じて下さい。
設定　2.8～5.4kPa
加圧中　4.20kPa
完了

圧力を確認し

SET

で進めます。



＜設定圧力異常＞

設定圧オーバー
＜!減圧して下さい＞
設定　2.8～5.4kPa
加圧中　6.40kPa

※設定範囲内になるまで
圧力を減圧してください。
（おしらせブザー）

＜P21／1-2-6＞
漏洩試験へ

1-2-5. 供給ガス圧での計測

■検査条件設定において漏洩試験時の加圧方法を「ガス」に設定されていた場合、
漏洩試験を供給ガス圧にて行います。

ブザー2回/ピッピッ

漏洩試験を
開始します。
!供給管側のガス栓を
開けてください
戻る　進む

[戻る]:温度影響判定へ

進むを選択し

SET

決定します。

ガス栓を開き配管へ
ガスを供給します。

供給ガス圧の確認
正常であればガス栓を
閉じてください
ガス圧　2.98kPa
確認

（おしらせブザー）

ガス圧が正常で
ある事を確認し

SET

で進めます。

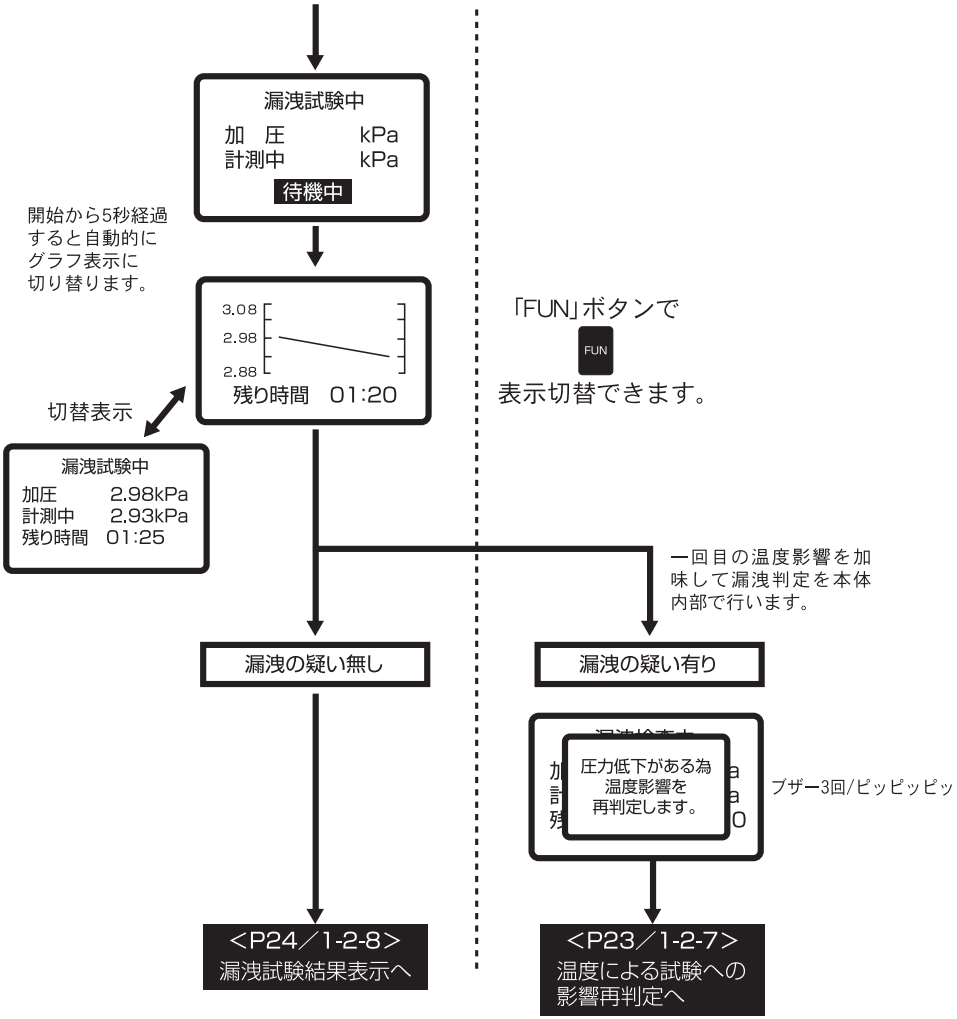
ガス栓を閉じます。

<P21／1-2-6>
漏洩試験へ

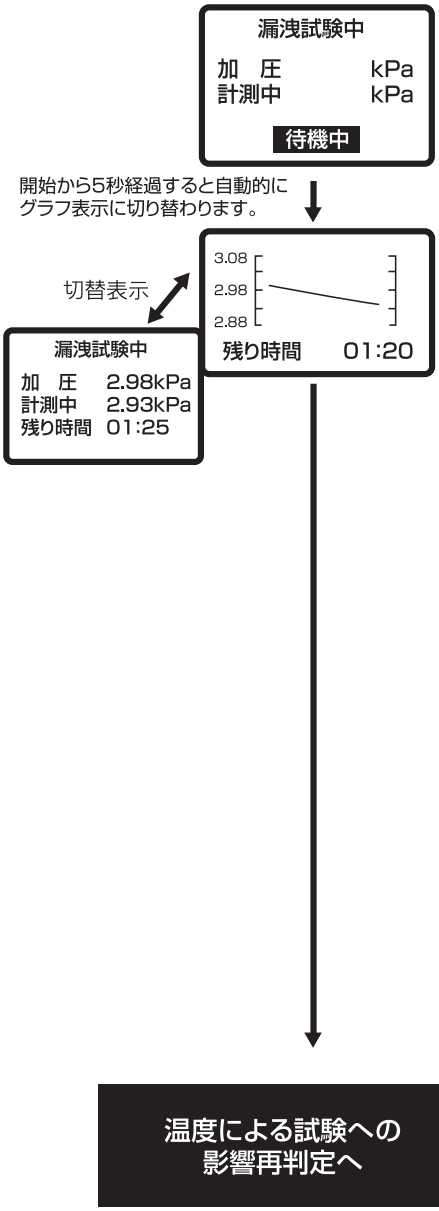
1-2-6. 漏洩試験

■圧力の状態を計測します。

①2分計測の場合（配管容量10ℓ以下の場合は2分計測に設定してください。）



②5分計測の場合（配管容量が10ℓを超える場合は5分計測に設定してください。）



「FUN」ボタンで

表示切替できます。

1-2-7. 温度による試験への影響再判定

■漏洩試験の2分計測で漏洩の疑いがあった場合、及び5分計測の場合、温度による試験への影響を再度判定します。

手動ポンプで加圧して計測した場合

ブザー2回/ピッピッ

!火気注意
安全確認のうえ
大気圧0.00kPa
まで減圧して下さい。
戻る　進む

[戻る]:温度影響判定の先頭へ

現在の配管内圧力
<!減圧して下さい。>
圧力　0.01kPa
減圧時間　3.5sec

※減圧が完了するとブザーが1回鳴り、温度による試験への影響を再判定します。

!バルブを
閉止して下さい。
確認

温度による試験への
影響を再判定します。
待機中

開始から5秒経過すると自動的にグラフ表示に切り替ります。

0.10
0.00
-0.10
再判定中残り 00:15

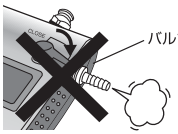
切替表示

温度による試験への
影響を再判定します。
再判定中残り　00:15

<P24／1-2-8>
漏洩試験結果表示へ

進むを選択し
SET
決定します。

禁止
本体バルブでの減圧は危険です。必ずブザーが鳴るまでコンロ等で残ガスを燃焼させ、減圧してください。



配管内の圧力が表示されます。
手動ポンプで加圧して試験を実施された場合は本体バルブを開いて減圧して下さい。

SET
を押して進める。

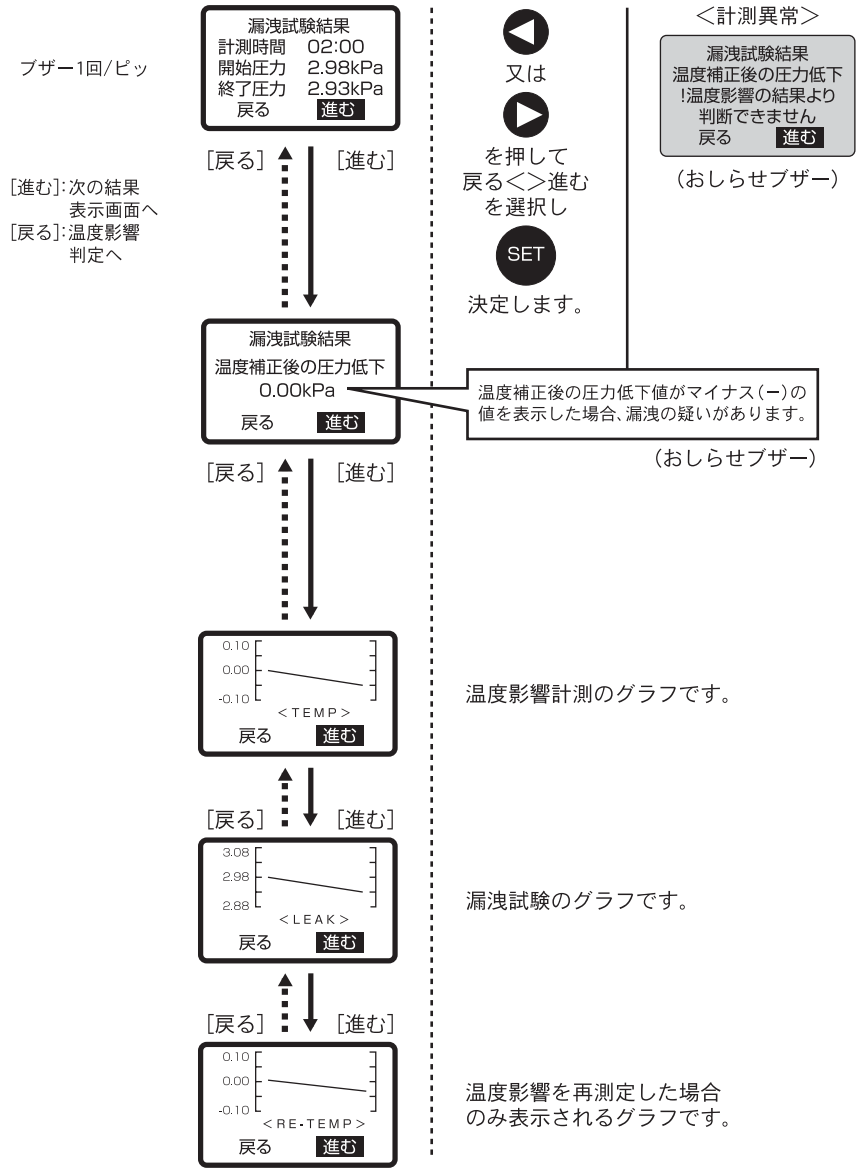
「FUN」ボタンで
FUN
表示切替できます。

ガス圧で計測した場合

!残ガスを燃焼させ
大気圧まで減圧して
下さい。バルブを開けての減圧は危険です。
戻る　進む

現在の配管内圧力
<!減圧して下さい。>
圧力　0.01kPa
減圧時間　3.5sec

■漏洩試験の結果を表示します。



実施のこと

漏洩試験結果で温度補正後の圧力低下が、マイナス（ー）の値を表示した場合（例えば−0.01kPa）漏えいの疑いがあります。
漏えい箇所の特定及び対処を実施してください。

1-2-9. 調整器圧力検査前の再減圧

■検査条件設定において漏洩試験時の加圧方法を「**手動**」に設定されていて、調整器圧力検査前の配管内圧力が大気圧ではない場合、大気圧への減圧が必要です。

ブザー2回/ピッピッ

!バルブを開けて
大気圧まで
減圧して下さい。

!火気注意
安全確認のうえ
大気圧0.00kPa
まで減圧して下さい。
戻る　**進む**

[戻る]:温度影響判定へ

現在の配管内圧力
<!減圧して下さい。>

圧力　　0.01kPa
減圧時間　3.5sec

ブザー2回/ピッピッ

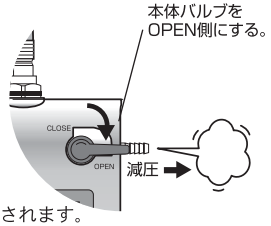
!バルブを
閉止して下さい。

確認

進むを選択し

SET

決定します。



配管内の圧力が表示されます。
単球式手動ポンプをはずし
排気バルブを開けて減圧して下さい。

1-2-10. ガス圧計測

■ガス圧の計測を行います。

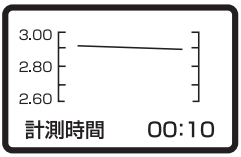
ブザー2回／ピッピッ

ガス圧を計測します。
!供給管側のガス栓を
開けて下さい。
戻る　進む

[戻る]：漏洩試験結果表示へ

ガス圧計測中
待機中
基準　2.0～4.0kPa
圧　力　　kPa

（おしらせブザー）



切替表示

ガス圧計測中
基準 2.0～4.0kPa
圧　力　2.90kPa
計測時間 00:10

ブザー1回／ピッ

ガス圧計測完了
基準　2.0～4.0kPa
圧　力　2.90kPa
計測時間　00:10
戻る　進む

交互表示

ブザー2回／ピッピッ

調整圧を計測します。
!コンロを点火して
下さい。
戻る　進む

[進む]：調整圧計測へ
[戻る]：ガス圧計測へ

進むを選択し

SET

決定します。

ガス栓を開き配管へ
ガスを供給します。

※待機中のまま動かない時はおしらせ
ブザーが鳴ります「SET」ボタンを
押して進めて下さい。

※注意！

ボンベのバルブを閉じ、次にボンベのバルブを開けるとガス圧が基準となる調整圧力以上になる場合があります。（調整器圧力検査）この現象は調整器の特性によるものです。ボンベのバルブをゆっくりと少しづつ開け、急激なガス圧の上昇をおこさないようにするか、調整器のコックやメーター手前の中間コックを操作することで回避できます。

「FUN」ボタンで

FUN

表示切替できます。

交互に表示
されます。

＜計測異常＞

!ガス圧異常
基準　2.0～4.0kPa
圧　力　1.95kPa
計測時間　00:10
戻る　進む

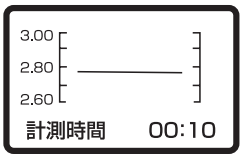
（おしらせブザー）

1-2-11.調整圧計測

■調整圧の計測を行います。

調整圧計測中
待機中
基準　2.3～3.3kPa
圧　力　　kPa

（おしらせブザー）



切替表示

調整圧計測中
基準　2.3～3.3kPa
圧　力　2.80kPa
計測時間　00:10

「FUN」ボタンで

FUN

切替表示できます。

調整圧計測完了
基準 2.3～3.3kPa
圧　力　2.80kPa
計測時間 00:10
戻る　進む

ブザー1回／ピッ

交互表示

交互に表示されます。

閉そく圧を計測します。
!コンロを止めて
下さい。
戻る　進む

ブザー2回／ピッピッ

[進む]:閉そく圧計測へ
[戻る]:ガス圧計測へ

※待機中のまま動かない時はおしらせブザーが鳴ります「SET」ボタンを押して進めて下さい。

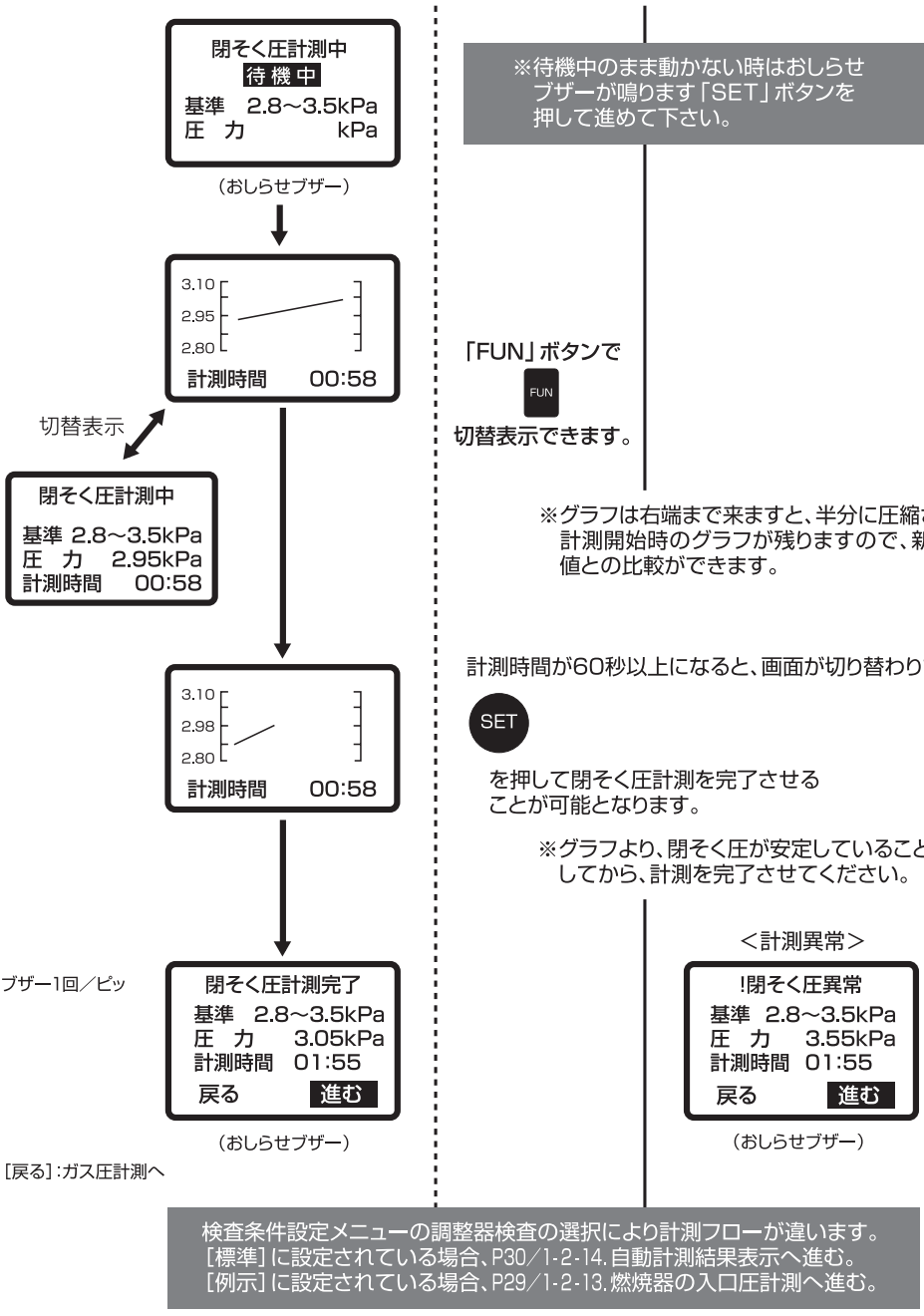
＜計測異常＞

!調整圧異常
基準 2.3～3.3kPa
圧　力　2.25kPa
計測時間 00:10
戻る　進む

（おしらせブザー）

1-2-12. 閉そく圧計測

■閉そく圧の計測を行います。

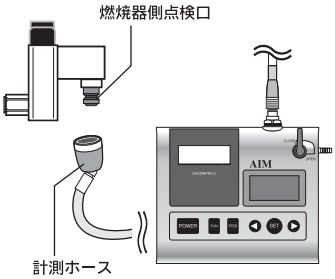


1-2-13. 燃焼器の入口圧計測

■燃焼器の入口圧計測を行います。 ※検査条件設定（1-5-1参照）で、調整器圧力検査を『例示』にした場合に検査を行います。

閉そく圧計測完了
燃焼器の
入口圧計測を
開始します。
戻る 進む

セーバープロⅡを燃焼器入口側の点検口へ接続して下さい。



ブザー2回／ピッピッ
入口圧を計測します。
!計測ホースを燃焼器
入口に再接続しコンロを
点火して下さい。
戻る 進む

コンロに点火した事を確認し

SET

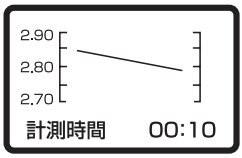
で進めます。

[戻る]：ガス圧計測へ

入口圧計測中
待機中
基準 2.0～3.3kPa
圧 力 kPa

※待機中のまま動かない時はおしらせブザーが鳴ります「SET」ボタンを押して進めて下さい。

（おしらせブザー）



切替表示

「FUN」ボタンで

FUN

切替表示できます。

入口圧計測中
基準 2.0～3.3kPa
圧 力 2.85kPa
計測時間 00:10

ブザー2回／ピッピッ
燃焼口の入口圧計測が
完了しました。
!コンロを
止めて下さい。
確認

コンロを消火した事を確認し

SET

で進めます。

＜計測異常＞

!入口圧異常
基準 2.0～3.3kPa
圧 力 3.35kPa
計測時間 00:10
戻る 進む

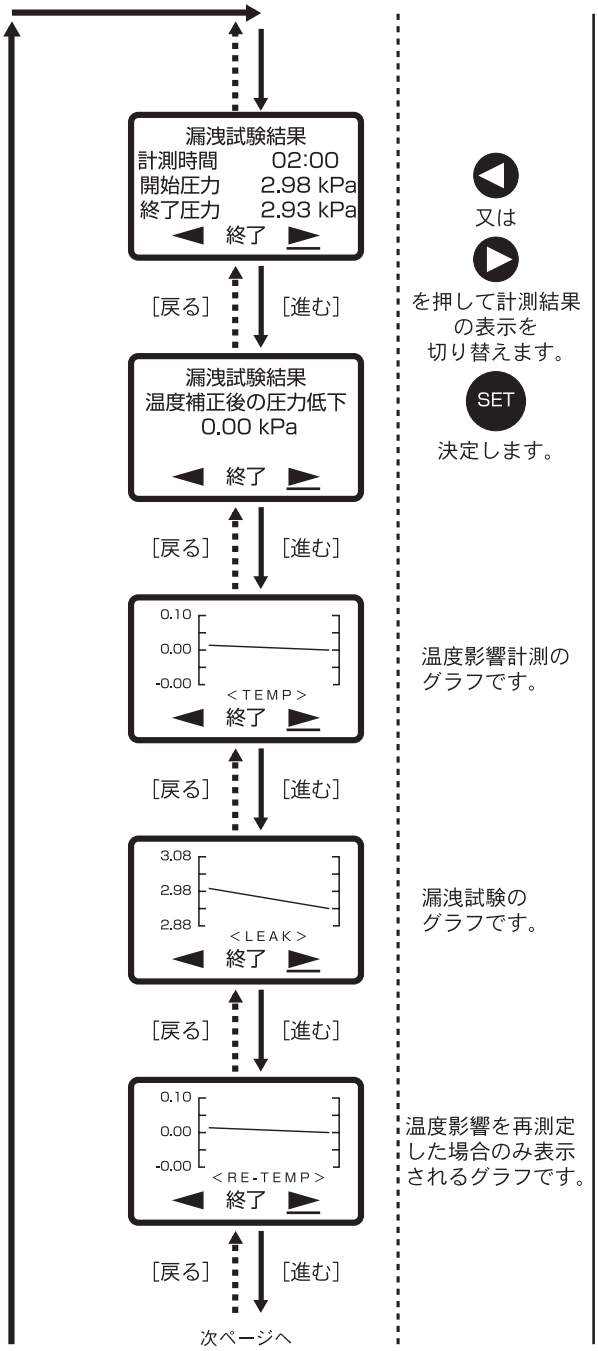
ブザー3回／ピッピッピッ
（おしらせブザー）

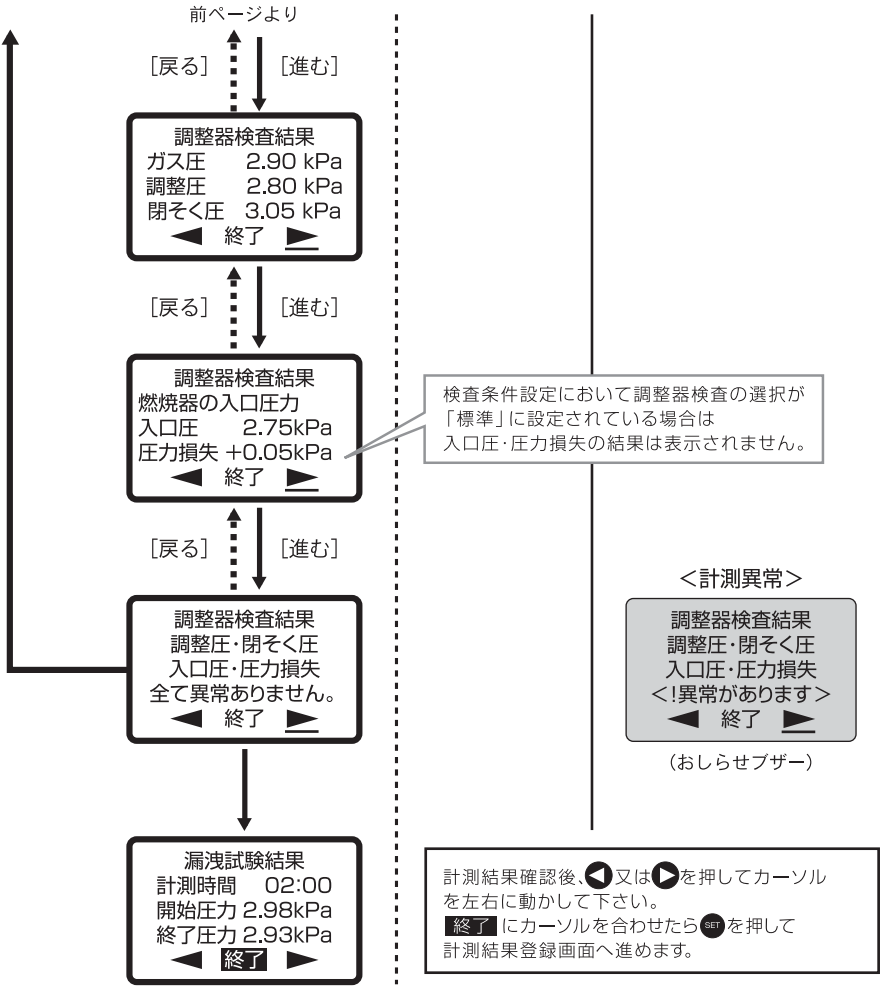
ブザー1回／ピッ
入口圧計測完了
基準 2.0～3.3kPa
圧 力 2.75kPa
計測時間 00:10
戻る 進む

[進む]：自動計測結果表示へ
[戻る]：ガス圧計測へ

1-2-14.自動計測結果表示

■漏洩試験、調整器圧検査の結果を表示します。





[►]:次の結果表示画面にスクロールします。
[終了]:計測結果登録画面へ進みます。
[◄]:前の結果表示画面へスクロールします。

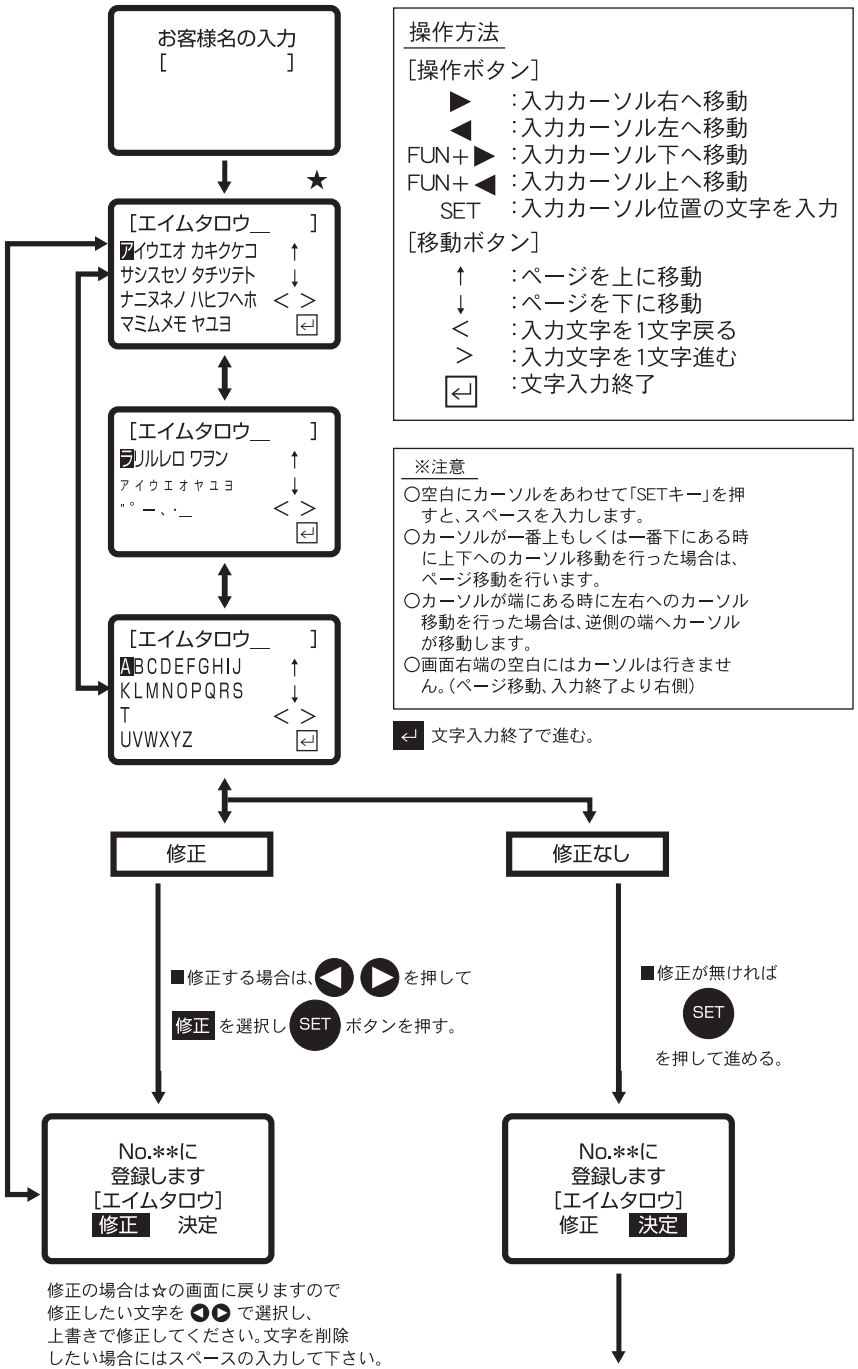
実施

漏洩試験結果において温度補正後の圧力低下がマイナス(−)値を表示した場合、漏洩の疑いがあります。

漏えい箇所の特定及び対策を実施して下さい。

1-2-15. 計測結果登録画面

■計測したデータと顧客名を保存します。(数字、カタカナ、英大文字入力出来ます。)



計測結果を印字
しますか?

はい　いいえ

[はい]:計測結果を印字後終了
[いいえ]:印字せずに終了

確認

プリンター動作時には、電力を多く消費するため電池の急激な起電力低下がおきることがあります。このため、液晶画面で電池残量があると表示していたとしてもプリンター印字がストップする場合があります。新しい電池に交換してください。

再印字しますか?

はい　**いいえ**

入力出来る文字の数は、15文字までです。

※入力したお客様名はプリンタでは印字されません。
また、決定を選択されるとセーバープロⅡのデータに登録され変更が出来なくなります。

[はい]:印字後終了画面へ
[いいえ]:終了画面へ

※計測結果登録後、その場で印字しなくても登録一覧の機能で後から印字することも可能です。

ガス設備検査票

お客様名

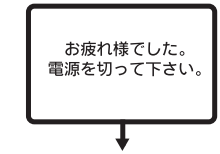
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 様

登録No	15
日時	05-06-24#12-34
製造番号	040062
[試験結果]	
1:計測時間[分]	1##00-02
2:開始圧力[kPa]	2##2.98
3:終了圧力[kPa]	3##2.93
4:最高圧力[kPa]	
5:最低圧力[kPa]	
6:温度補正後の圧力低下[kPa]	6##0.00
7:手動設定計測時の差圧[kPa]	
[調整器圧力検査]	
8:ガス圧[kPa]	8##2.90
9:調整圧[kPa]	9##2.80
10:閉そく圧[kPa]	10##3.05
11:燃焼器入口圧[kPa]	11##2.75
12:圧力損失[kPa]	12##0.05

結果	確認	検査員
合・否		

1-2-16.終了画面

■終了メッセージを表示します。



メインメニュー画面へ

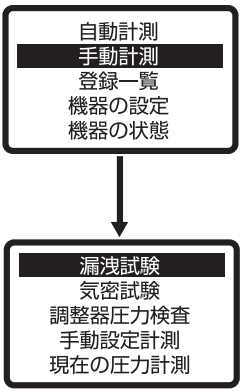
必ず検知コックと計測ホースの接続を外してから

SET で進めます。

※登録された計測結果データにメインメニューの［登録一覧］で確認する事が出来ます。

1-3. 手動計測

■各試験項目を、個別に行えます。また、手動設定計測では、任意に設定した圧力および時間で計測が行えます。



◀ ▶ で動かし手動計測を選択します。

SET ボタンで決定します。

◀ ▶ で切り替えます。

目的の検査項目を選択したら

SET

を押して決定します。

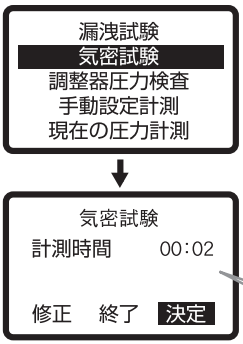
※［漏洩試験］［気密試験］［調整器圧力検査］［手動設定計測］については、測定後に計測結果登録画面<P32/1-2-15>にてデータの登録と印字ができます。

1-3-1. 漏洩試験

■自動計測の大気圧ゼロ点調整<P17／1-2-2>から漏洩試験の結果表示<P24／1-2-8>までと同様、漏洩試験に必要な計測を行ないます。

1-3-2. 気密試験

■気密試験を選択します。気密試験の加圧計測時間は、10ℓ以下の場合は2分計測で、配管容量が10ℓ超～50ℓの場合は5分計測に設定してください。



ブザー1回/ピッ

実行する項目を選びます。

◀ ▶

項目を選び決定します。SET

2分計測であれば

SET を押して進めます。

5分計測であれば ◀ を押して

修正 を選択し SET を押します。

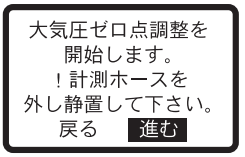
◀ ▶ を押して試験時間を変更し

SET で決定します。

（ 02 2分計測　05 5分計測 ）

1-3-2-1. 大気圧ゼロ点調整

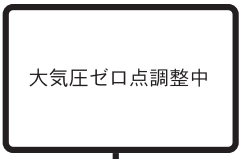
■現在の大気圧状態を、0.00kPaにゼロ点調整します。



ブザー2回/ピッピッ

[戻る]:気密試験設定画面
<P36/1-3-2へ>

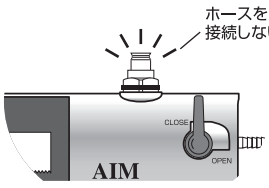
[進む]



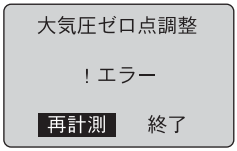
進むを選択し

SET

決定します。



＜異常の場合＞



（おしらせブザー）

[再計測]:大気圧ゼロ点調整を再度行います。
[終了]:手動計測メニュー画面へ
<P35/1-3へ>

※10秒間、圧力が安定しないときは、エラーとなります。再度、大気圧ゼロ点調整を行って下さい。
※何度もエラーが出る場合はメインメニューに戻り［機器の設定］のゼロ点設定を行って下さい。

＜［機器の設定］機器のゼロ点設定に関して⇒P45/1-5-2へ＞

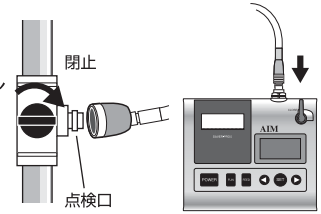
1-3-2-2. 温度による試験への影響判定

■気温の上昇／下降等により、配管内の圧力が影響を受けないか判定を行います。
計測時間は、1分です。

温度影響を判定します。
!供給管側のガス栓を
閉止・計測ホースを
接続して下さい。
戻る　進む

ブザー2回/ピッピッ

進むを選択し
SET
決定します。



[進む]:温度による影響判定開始
[戻る]:大気圧ゼロ点調整
<P36/P1-3-2-1へ>

残ガスがある場合

管内の圧力が±0.02kPa
以上の時減圧を指示。

!残ガスを燃焼させ
大気圧まで減圧して
下さい。バルブを開け
ての減圧は危険です。
戻る　進む

ブザー2回/ピッピッ

[戻る]:温度影響判定の先頭へ

現在の配管内圧力
<!減圧して下さい。>

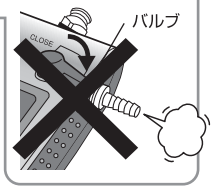
圧力　0.43kPa
減圧時間　3.8sec

※減圧完了するとブザーが1回鳴り、温度
による試験への影響を判定します。
※減圧後は30秒間待機します。

残ガスが無い場合

温度による検査への影響判定
へ自動的に進みます。

禁止
本体バルブでの
減圧は危険です。
必ずブザーが鳴
るまでコンロ等
で残ガスを燃焼させ、減圧
してください。

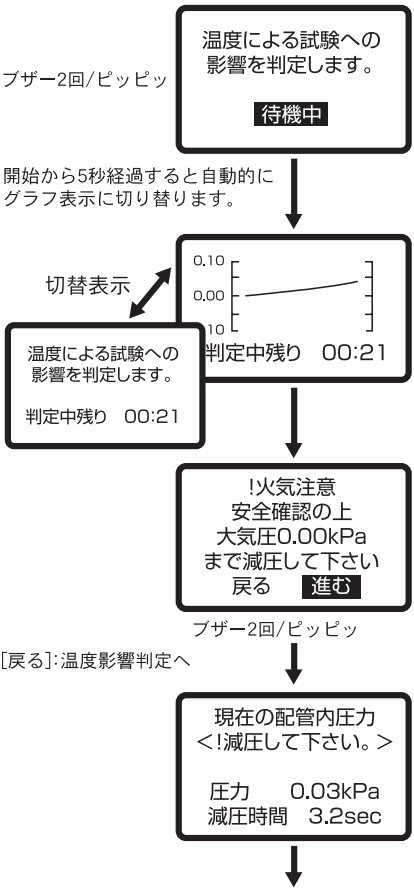


進むを選択し
SET
決定します。

!バルブを
閉止して下さい。
確認

ブザー2回/ピッピッ

SET
を押して進めます。


温度による試験への
影響を判定します。
待機中
ブザー2回/ピッピッ
開始から5秒経過すると自動的に
グラフ表示に切り替ります。
切替表示
0.10
0.00
10
判定中残り 00:21
温度による試験への
影響を判定します。
判定中残り 00:21
!火気注意
安全確認の上
大気圧0.00kPa
まで減圧して下さい
戻る 進む
ブザー2回/ピッピッ
[戻る]:温度影響判定へ
現在の配管内圧力
<!減圧して下さい。>
圧力 0.03kPa
減圧時間 3.2sec
「FUN」ボタンで
FUN
切替表示できます。
管内の圧力が±0.02kPa
以上の時減圧を指示。
<温度による影響がある場合>
本体バルブを
開けて減圧して
下さい。
進むを選択し
SET
決定します。

■気密試験の圧力まで単球式手動ポンプを使用して加圧し、圧力の状態を計測します。

⚠ 単球式手動ポンプを接続して下さい。

バルブを開け
加圧して下さい。
設定 8.4～10.0kPa
加圧中　2.85kPa

圧力が7.5kpaに達したら
自動的に表示が切替ります。

ブザー1回/ピッ

設定圧までゆっくり
加圧して下さい。
設定 8.4～10.0kPa
加圧中　8.40kPa

圧力が設定圧に達したら
自動的に表示が切替ります。

!バルブを
閉じて下さい。
設定 8.4～10.0kPa
加圧中　9.80kPa
完了

加圧完了

気密試験中

加圧　kPa
計測中　kPa
待機中

開始から5秒経過すると
自動的にグラフ表示に
切替ります。

切替表示

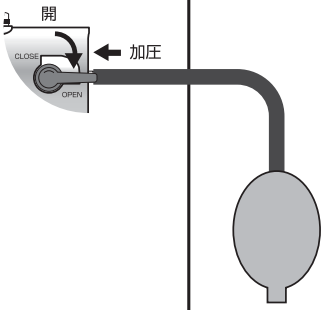
気密試験中
加圧　9.75kPa
計測中　9.75kPa
残り時間　00:25

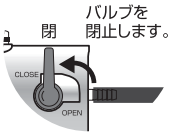
10.0
9.80
9.60
残り時間　00:25

ブザー1回/ピッ

気密試験結果
開始圧力　9.75kPa
終了圧力　9.65kPa
計測時間　02:00
戻る　進む

（おしらせブザー）





圧力が設定圧力
に達したのを
確認し

SET

で進めます。

「FUN」ボタンで

FUN

切替表示
できます。

＜設定値オーバーの場合＞

設定圧オーバー
＜!減圧して下さい＞
設定 8.4～10.0kPa
加圧中　10.50kPa

（おしらせブザー）

管内の圧力が10kPa
を越えた際表示。

※設定圧まで減圧して
ください。

[進む]:温度による試験への影響再判定へ<P40/1-3-2-4へ>
[戻る]:温度による試験への影響判定へ<P37/1-3-2-2へ>

1-3-2-4. 温度による試験への影響再判定

■温度による試験への影響を再度判定します。

温度影響を再判定
します。
!バルブを開け大気圧
まで減圧して下さい。

ブザー2回/ピッピッ

管内の圧力が±0.02kPa以上の時減圧を指示。

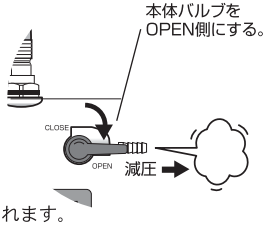
!火気注意
安全確認のうえ
大気圧0.00kPa
まで減圧して下さい。
戻る　進む

ブザー2回/ピッピッ

進むを選択し

SET

決定します。



[戻る]:温度影響判定の先頭へ

減圧完了

ブザー1回/ピッ

現在の配管内圧力
<!減圧して下さい。>

圧力　　0.43kPa
減圧時間　3.8sec

配管内の圧力が表示されます。
単球式手動ポンプをはずし
排気バルブを開けて減圧して下さい。
※減圧後は30秒間待機します。

!バルブを
閉止して下さい。

確認

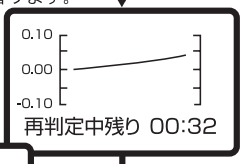
SET

で進めます。

温度による試験への
影響を再判定します。

待機中

開始から5秒経過すると自動的に
グラフ表示に切り替ります。



切替表示

温度による試験への
影響を再判定します。

再判定中残り　00:32

「FUN」ボタンで

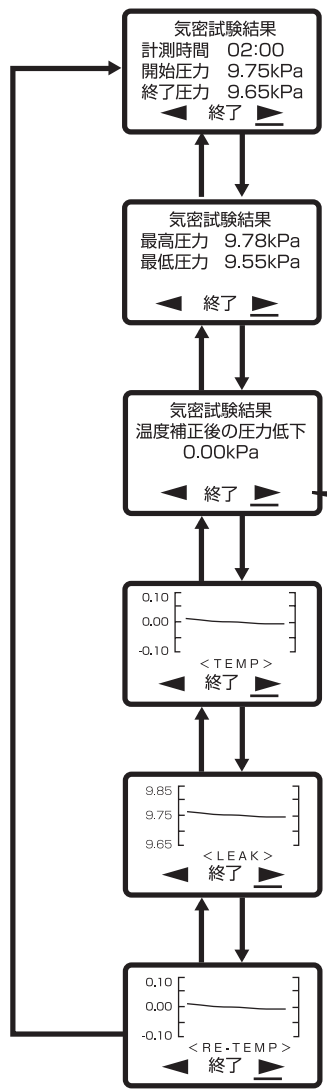
FUN

切替表示できます。

■終了すると、結果を表示します。

1-3-2-5. 気密試験計測結果表示

■気密試験の結果を表示します。



[►]:次の結果表示にスクロールします。
[終了]:計測結果登録画面へ進みます。
[◄]:前の結果表示へスクロールします。

ブザー1回/ピッ

◀ 又は ▶ を押して計測結果の表示を切り替えます。

ブザー1回/ピッ

前半の温度影響計測のグラフです。

気密試験中のグラフです。

後半の温度影響計測のグラフです。

＜異常の場合＞

気密試験結果
温度補正後の圧力低下
!温度影響の結果より
判断できません
◄ 終了 ►

（おしらせブザー）

温度補正後の圧力低下値がマイナス(ー)の値を表示した場合、漏洩の疑いがあります。

（おしらせブザー）

計測結果確認後、◀又は▶を押してカーソルを左右に動かして下さい。
終了 にカーソルを合わせたら SET を押して計測結果登録画面へ進めます。

エラー、漏えいが表示されていても必ず登録を行って下さい。
（原因を調査・判断する手段になります。）

1-3-3. 調整器圧力検査

調整器圧力検査（標準）を選択されていた場合　検査条件設定は<P45／1-5-1>を参照

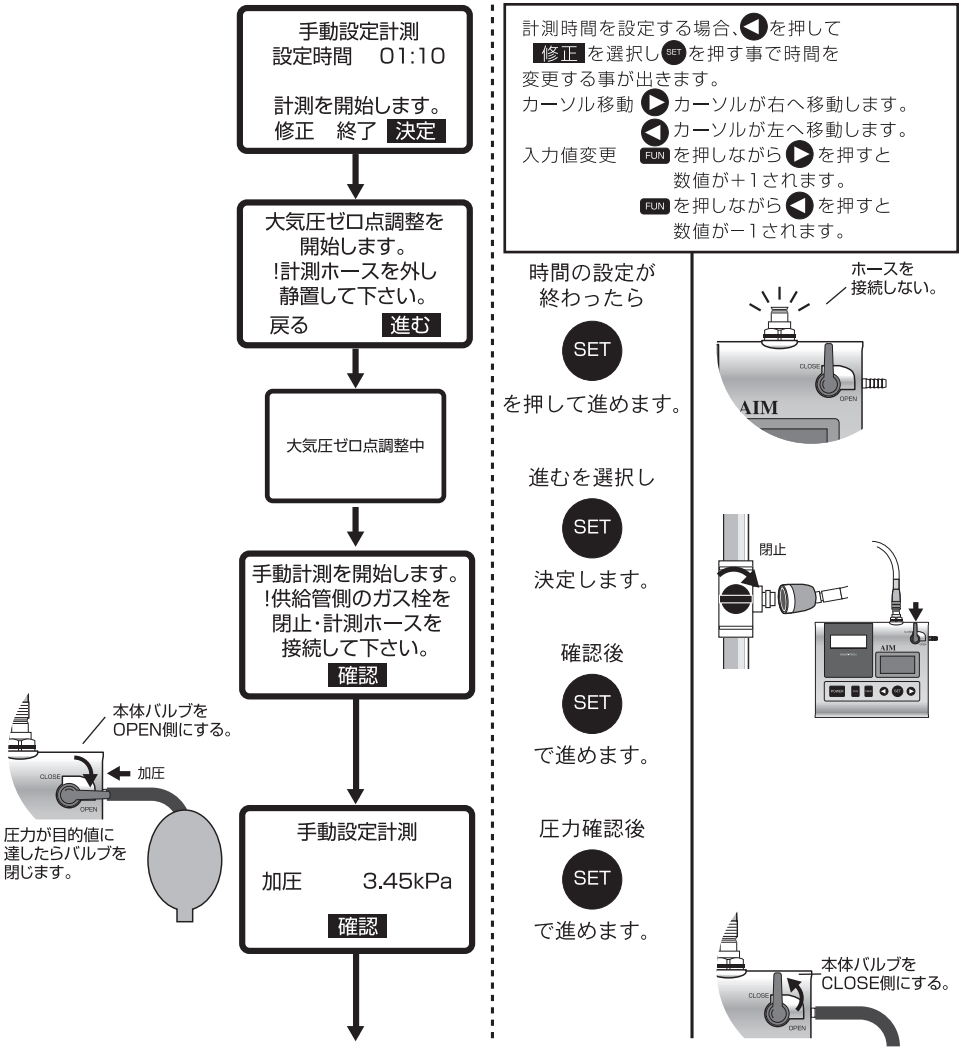
大気圧ゼロ点調整<P17／1-2-2>を行なってから自動計測のガス圧計測<P26／1-2-10>
調整圧計測<P27／1-2-11>、閉そく圧計測<P28／1-2-12>を行います。

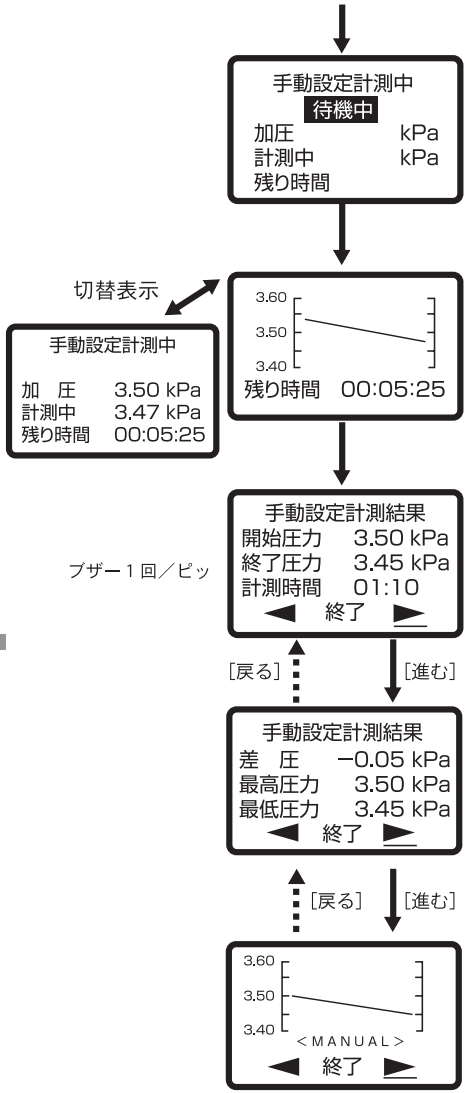
調整器圧力検査（例示）を選択されていた場合　検査条件設定は<P45／1-5-1>を参照

大気圧ゼロ点調整<P17／1-2-2>を行なってから自動計測のガス圧計測<P26／1-2-10>、
調整圧計測<P27／1-2-11>、閉そく圧計測<P28／1-2-12>、
燃焼器の入口圧計測<P29／1-2-13>を行います。

1-3-4. 手動設定計測

■手動で測定時間を設定して漏洩試験、気密試験、調整器圧力検査が行えます。
（ただし、温度補正は行いませんので、計測圧力の結果表示だけとなります。）





※60秒間待機中となります。

「FUN」ボタンで FUN 切替表示できます。

◀ 又は ▶ を押して検査結果の表示を切り替えます。

計測結果確認後、◀又は▶を押してカーソルを左右に動かして下さい。
終了 にカーソルを合わせたらSETを押して計測結果登録画面へ進めます。

[►]:次の結果表示にスクロールします。
[終了]:計測結果登録画面へ進みます。
[◄]:前の結果表示へスクロールします。

1-3-5. 現在の圧力計測

■配管内の現在の圧力を表示します。大気圧ゼロ点調整<P17/1-2-2>を行なってから圧力値を表示します。

[終了]:手動計測メニュー画面へ<P35/1-3へ>

1-4. 登録一覧

■計測結果の登録データの確認とプリンタでの印刷、登録データの削除、パソコンへの登録データ転送（オプション）を行います。

で動かし

SET

ボタンで選択します。

実行する項目を選びます。

項目を選び決定します。

SET

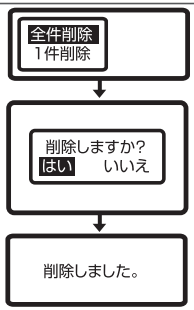
登録データ

■試験結果を表示させ登録内容の確認及び計測結果の再印字が出来ます。再印字の方法は<P74／No69参照>

データ削除

実施

データは削除されると復帰する事が出来なくなります。プリンタでのプリントアウト、又は、データ管理システムを使用してパソコンへのデータ転送（オプション）を必ず行って下さい。



画面表示の内容を

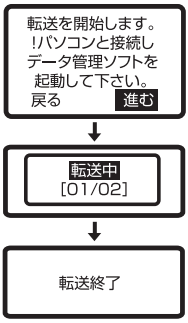
選び SET ボタン

で決定していきます。

データ転送（オプション）

通常はパソコン側からの操作となります。

ブザー2回/ピッピッ



画面表示の内容を

選び SET ボタンで決定していきます。

＜異常の場合＞

!登録データが
ありません。

!転送エラー
中断します。

（おしらせブザー）

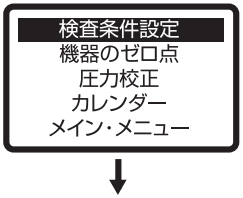
＜転送タイプではない場合＞

パソコン転送機能は
ついていません。

（おしらせブザー）

上記の操作をしなくてもセーバープロ「 が電源ON後の『機器の状態』を表示している状態の場合はパソコン側からのデータ転送指示信号を受付後、データ転送を自動的に開始します。

1-5. 機器の設定



実行する項目を選びます。

項目を選び決定します。

1-5-1. 検査条件設定

■漏洩試験時の加圧方法、調整器検査の方法を設定します。

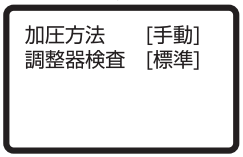
● **加圧方法は、** 手動 （単球式手動ポンプにて漏洩加圧値まで加圧して計測）か、 ガス （通ずるガスを使用して計測）**を選択できます。**

● **調整器検査は、** 標準 （ガス圧、調整圧力、閉そく圧力を計測）**か.** 例示 （ガス圧、調整圧力、閉そく圧力、燃焼器の入口圧力、圧力損失を計測）**を選択できます。**
（ 標準 を選択され、燃焼器近くの点検口で調整器の検査を行われる場合、調整圧力の計測が燃焼器の入口圧力の計測と同じ意味になります。 例示 を選択された場合、燃焼器の入口圧を計測するには燃焼器近くに点検口がある必要があります。計測を行う配管設備に合わせて選択してください。）

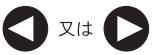
を押して「修正」に
カーソルを合わせ

で進めます。

[終了]：機器の設定画面へ



[修正]



を押すと条件を選択できます。

で次の項目へ移動します。

設定内容確認後

で進めます。

1-5-2. 機器のゼロ点

■機器のゼロ点補正値を登録します。

山間部などでは環境の変化で大気圧に違いが
出る事がありますので、試験前に設定を行って下さい。

セーバープロⅡを静置し、周囲の圧力変動を避けること!!
（機器の基準点となります。）

■9.6kPa以上10.0kPa未満で圧力校正を行います。

確認

※ 圧力校正の基準器として校正期限内の電子・電気式マノメータ（最小目盛0.01kPa以下）を準備してください。
※ セーバープロⅡの電源を入れ60分以上置いてから圧力校正を行ってください。
※ 圧力校正は23～25℃の気温が安定している場所で行ってください。
※ セーバープロⅡを静置させ、周囲の圧力変動を避けるようにしてください。
※ 決められた検査員以外の方は圧力校正をしないでください。

ブザー2回/ピッピッ

機器のゼロ点設定を
開始します。
!計測ホースを外し
静置して下さい。
戻る　進む

[戻る]：機器の設定メニューへ戻ります。

転送を開始します。
設　定　中
read (32)
戻る　進む

ブザー1回/ピッ

転送を開始します。
設定完了
戻る　進む

ブザー2回/ピッピッ

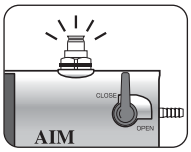
!単球式手動ポンプ
を取付け、計測ホース
を基準器に接続
して下さい。
戻る　進む

[戻る]：機器のゼロ点設定へ戻ります。

単球式手動ポンプを接続して下さい。

バルブを開け
加圧して下さい。
設定9.6～10.0kPa
加圧中　1.85kPa

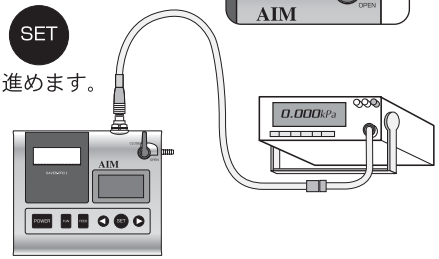
セーバープロⅡを静置して下さい。



計測ホースを
外した事を確認し

SET

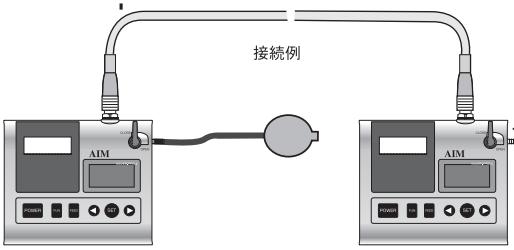
で進めます。



※単球式手動ポンプを本体に接続し、基準マノメータと接続して下さい。接続後本体バルブを開いてホース内の圧力を0kPaにするとともに、基準マノメータもゼロ設定して下さい。

圧力の比較検査の基準器がマノメータ又はこれと同等以上の精度を有する圧力計となりましたので、セーバープロ同士での圧力の比較検査が可能となりました。

接続例



圧力校正対象の
セーバープロ

基準器校正期限内の
セーバープロ

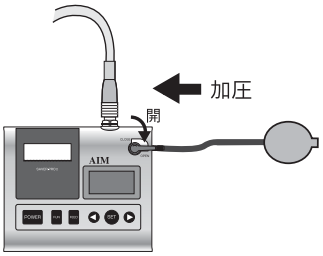
基準器側のセーバープロは、〈手動計測〉現在の圧力計測〈1-3-5/P43〉において圧力を表示します。

接続状態を確認し

SET

で進めます。

単球式手動ポンプで
加圧して下さい。



※セーバープロⅡ定期点検表にセーバープロⅡと基準器の表示圧力を記入し、本体バルブを開けて加圧して下さい。

圧力が7.5kPaに達したら自動的に表示が切り替ります。

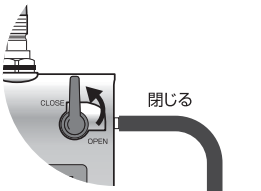
ブザー1回/ピッ

設定圧までゆっくり
加圧して下さい。
設定　9.6～10.0kPa
加圧中　　8.10kPa

圧力が設定圧に達したら
自動的に表示が切り替ります。

※1　この液晶画面において[加圧中]の数値表示が安定したところで表示されている圧力を基準マノメータの表示と比べて下さい。±0.03kPa以内の差であれば校正値の入力は必要ありません。
※2　セーバープロ定期点検表にセーバープロと基準器の表示圧力を記入して下さい。

!バルブを
閉じてください。
設定　9.6～10.0kPa
加圧中　　9.75kPa
完了



閉じる

圧力が設定圧力
に達したら本体
バルブを閉止し

SET
で進めます。

管内の圧力が１０kPa
を越えた際表示。

＜設定圧オーバーの場合＞

設定圧オーバー
＜!減圧して下さい＞
設定 9.6～10.0kPa
加圧中　10.50kPa

（おしらせブザー）

※減圧完了するとブザーが
1回鳴り、次の表示に進みます。

現在の圧力
9.855kPa
メニュー

この画面での圧力値は、センサの温度補償が無効となっています。
23～25℃以外では基準器との比較を行わないで下さい。

SET
で進めます。

表示圧力と基準マノメータとの
差が±0.03kPaを越えている場合

表示圧力と基準マノメータとの
差が±0.03kPa以内の場合

※3　23～25℃を保てない場合には御自身での校正値入力は中止して下さい。
エイムテックにて有料で校正を承っております。

校正値入力
校正値登録
現在圧力
校正終了

SET
で進めます。

校正値登録に進みます。

校正値入力
基準器の圧力を入力して下さい。
[校正値　9.855kPa]

▶ カーソルが右へ移動します。◀ カーソルが左へ移動します。
FUN ＋ ▶ カーソルの位置の数字が＋1されます。
FUN ＋ ◀ カーソルの位置の数字が－1されます。
SET 入力を終了します。

（例：基準器が9.800kPaを表示していた場合。）

校正値入力
基準器の圧力を入力して下さい。
[校正値　9.800kPa]
修正　終了　決定

SET
で進めます。

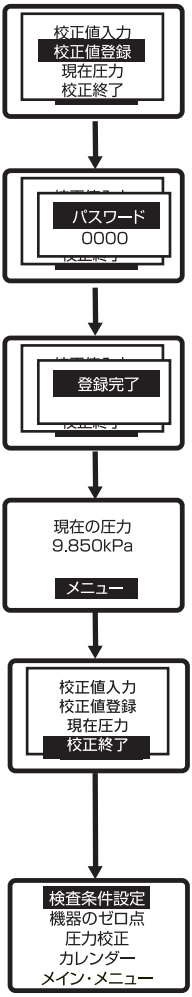
[修正]：校正値の入力へ戻ります。
[終了]：現在の圧力を表示したメニュー画面へ戻ります。（注：校正値は未入力のままです）
[決定]：校正値が入力されメニューへ戻ります。

現在の圧力
9.800kPa
メニュー

▶ を押して
校正値登録にカーソルを合わせ

SET
で進めます。

操作方法・その他



カーソルが右へ移動します。カーソルが左へ移動します。

FUN ＋ カーソルの位置の数字が＋1されます。

FUN ＋ カーソルの位置の数字が－1されます。

パスワード1397とします。SET 入力を終了します。

SET で進めます。

を押して校正終了にカーソルを合わせ

SET で進めます。

メイン・メニューにカーソルを合わせ

SET を押します。

校正が終了したら基準器と接続したまま、メインメニューから〈手動計測〉現在の圧力測定〈1-3-5/P43〉を選択し、セーバープロと基準器の圧力計測値の差が±0.03kPa以下（加圧設定値:9.6～10.0kPa）であることを確認してください。範囲外であればもう一度校正をやりなおしてください。

セーバープロ定期点検表に校正後のセーバープロと基準器の表示圧力を記入しましょう。

メインメニューの「機器の状態」で定期点検予定日までの残り日数が364日となっている事を確認して下さい。

■日時設定を行います。

▶ カーソルが右へ移動します。

◀ カーソルが左へ移動します。

FUN ＋ ▶ カーソルの位置の数字が＋1されます。

FUN ＋ ◀ カーソルの位置の数字が－1されます。

SET 入力を終了します。

1-6. 機器の状態

■日付、12ヶ月毎の点検予定日、電池残量を表示します。

SET にて終了

2.セーバープロⅡの日常/定期点検要項

実施

必ずおこなってください！

始業時において、次の項目を確認・点検すること。(日常または定期点検)また、不良項目が発生した場合は、速やかに修理等を行うこと。

1.動作・機能検査

検査項目		合否判定
日常点検	(1)ブザー音	本体の電源を入れたとき、または切った時、ブザー音が鳴動していること。
	(2)電池確認	電池の残量を確認する。必要に応じて新しい電池と交換をする。
	(3)本体漏洩試験	漏れなき配管設備にて、[漏洩試験]を行い、試験結果で温度補正後の圧力低下が0.00kPaと表示されること
	(4)ゼロ点調整の確認	(例)[手動計測]→[現在の圧力計測]を選択し、[大気圧のゼロ点調整]を実行させたとき、“0.00kPa”を指示できること。
	(5)本体の確認	ケース・表示部・スイッチシート等が変形、割れ、破れ等、損傷していないこと。
	(6)付属品の確認	検知ホースに亀裂等の損傷はないか。また、付属品は一式揃っているか。
	(7)プリンタ用紙の確認	プリンタ用紙が充分にあること。
	(8)プリンタの作動確認	印字が正常に行われ、紙送りがスムーズであること。
定期点検	(1)圧力比較確認(校正)	9.6～10.0kPaまで加圧して比較し基準器との差が“±0.03kPa”以内であることを確認する。(12ヶ月毎に実施の事)

2.日常点検表の管理

検査項目により日常/定期点検を実施し、点検表に合否判定を記入する。
日常点検は1年間保管すること。

セーバープロⅡの日常点検表

検査項目により日常点検を実地し、点検表に合否判定を記入します。
日常点検表は1年間保管してください。

品質管理責任者

（　　年　　月）

会社名		製造番号		取扱責任者	

日	点検者	ブザー音	電池 残量	本体 漏洩試験	ゼロ点調整 の確認	本体の 確認	付属品の 確認	プリンタ用紙 の確認	プリンタの 作動確認
1									
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
31									

※このページはコピーしてお使いください。

セーバープロⅡの定期点検表

検査項目により定期点検を実地し、点検表に合否判定を記入します。
定期点検表は必ず保管してください。

（購入年月日　　年　　月　　日）

12ヶ月毎に圧力校正を実施し、この点検表に記録を行って下さい!

品質管理責任者	

会社名		製造番号		取扱責任者	

9.6～10.0kPaで基準器と比較し、校正を行う事。

点検年月日	点検者	校正前の値　（単位　kPa）			校正が必要な圧力差（単位 kPa）	校正後の値　（単位　kPa）	
		比較圧力	表示機器	表示値		表示機器	表示値
		9.6～10.0kPa	基準器		±0.04kPa以上	基準器	
			セーバープロⅡ			セーバープロⅡ	
		9.6～10.0kPa	基準器		±0.04kPa以上	基準器	
			セーバープロⅡ			セーバープロⅡ	
		9.6～10.0kPa	基準器		±0.04kPa以上	基準器	
			セーバープロⅡ			セーバープロⅡ	
		9.6～10.0kPa	基準器		±0.04kPa以上	基準器	
			セーバープロⅡ			セーバープロⅡ	
		9.6～10.0kPa	基準器		±0.04kPa以上	基準器	
			セーバープロⅡ			セーバープロⅡ	
		9.6～10.0kPa	基準器		±0.04kPa以上	基準器	
			セーバープロⅡ			セーバープロⅡ	
		9.6～10.0kPa	基準器		±0.04kPa以上	基準器	
			セーバープロⅡ			セーバープロⅡ	
		9.6～10.0kPa	基準器		±0.04kPa以上	基準器	
			セーバープロⅡ			セーバープロⅡ	
		9.6～10.0kPa	基準器		±0.04kPa以上	基準器	
			セーバープロⅡ			セーバープロⅡ	
		9.6～10.0kPa	基準器		±0.04kPa以上	基準器	
			セーバープロⅡ			セーバープロⅡ	
		9.6～10.0kPa	基準器		±0.04kPa以上	基準器	
			セーバープロⅡ			セーバープロⅡ	
		9.6～10.0kPa	基準器		±0.04kPa以上	基準器	
			セーバープロⅡ			セーバープロⅡ	
		9.6～10.0kPa	基準器		±0.04kPa以上	基準器	
			セーバープロⅡ			セーバープロⅡ	

※このページは必要に応じてコピーしてお使いください。

3.SAVER PRO データ管理システムについて

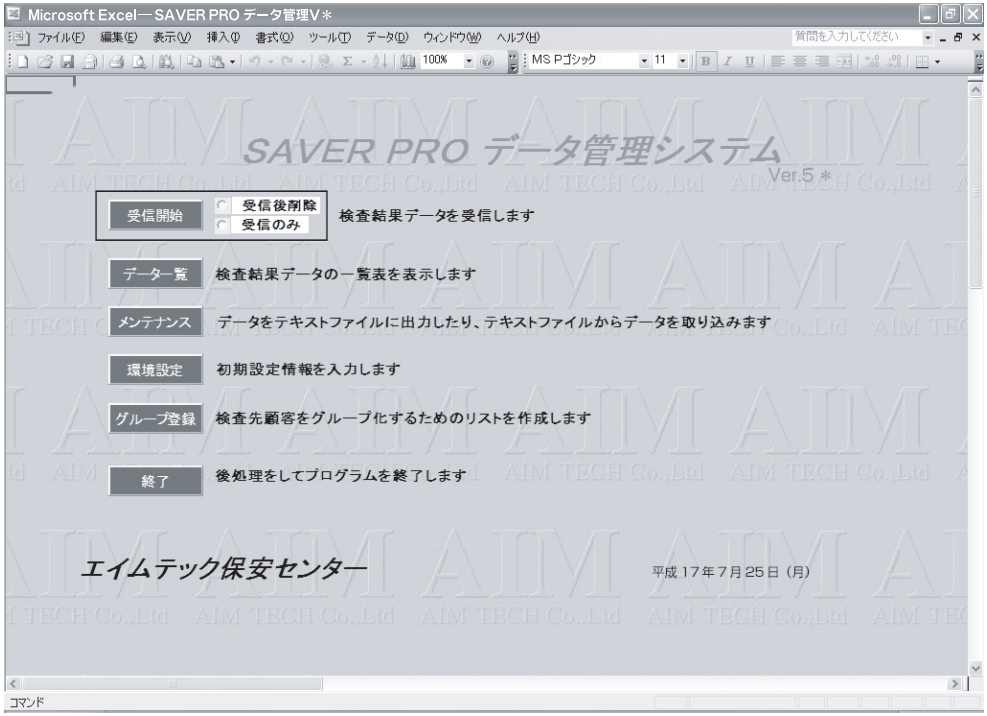
パソコン接続タイプのセーバープロをご購入された場合
付属CDの中にSAVER PRO データ管理システムが入っています。
お使いのパソコンにインストールしてください。(セーバープロⅠ·Ⅱ共通)

セーバープロⅠ·Ⅱの計測結果データを蓄積し、パソコン上で分かりやすく
管理分析するためのソフトウェアです。主な機能は以下の通りです。

確認 **●セーバープロⅠをお使いのお客様へ**

本ソフトウェアはセーバープロⅠ(本体のバージョンがVer.2.2)およびセーバープロⅡ(本体のバージョンがVer.1.2以降)に対応しております。

メニュー画面



- 「受信開始」ボタンセーバープロⅠ·Ⅱの検査結果データを受信し保存することができます。
  “受信後削除”をチェックしておくと、データ受信後自動的にセーバープロⅠ·Ⅱのデータを削除します。
- 「データー覧」ボタン保存したデータの一覧画面に移動します。
- 「メンテナンス」ボタン月次データファイルの作成、テキストファイルへの出力、そのテキストファイルの取り込み、さらには保存しているデータの削除を行うためのメンテナンス画面に移動します。
- 「環境設定」ボタン会社名を入力する環境設定画面に移動します。
- 「グループ登録」ボタン検査結果データを販売店、地域などでグループ化するための、グループ名の登録画面に移動します。
- 「終了」ボタンセーバープロデータ管理システムを終了させます。

①セーバープロⅠ·Ⅱからパソコンへの計測結果データを転送する為の準備

■データ管理システムのソフトウェアをパソコンへインストールして下さい。
対象となるパソコンはOSが Windows 98 SE、Me、2000、XP でUSBポートが使用可能なものです。パソコンにシリアルポート(RS232C)しかない場合は別途ご相談ください。

■データ管理ソフトのインストール

●付属の「SAVER PRO セットアップCD-ROM」と書かれたCDをパソコンのCD-ROMドライブへセットして下さい。

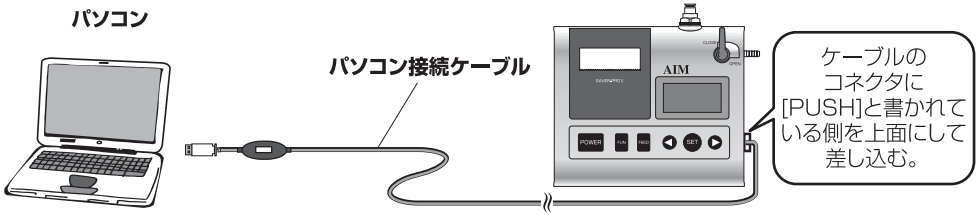
●マイコンピュータからCDをセットしたCD-ROMドライブを選択してダブルクリックしフォルダを開いて下さい。

●「saverpro_V*.EXE」という自己解凍ソフトがありますのでダブルクリックします。

●自己解凍を開始します。途中でセキュリティの警告画面が出た場合はそのまま 実行(R) をクリックします。

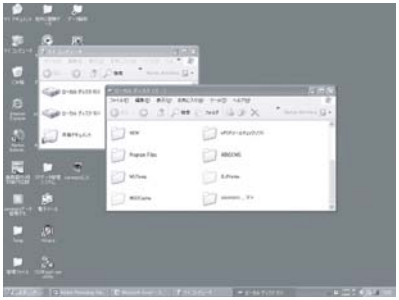
●ソフトウェアの解凍先が指定されます。特に問題がなければ「c:¥」のまま(ローカルディスク(c:)を指定) OK をクリックします。
※必要に応じて他のローカルディスクを指定されても構いません。

注 パソコン接続ケーブルをパソコンのUSBポートへ接続して下さい。



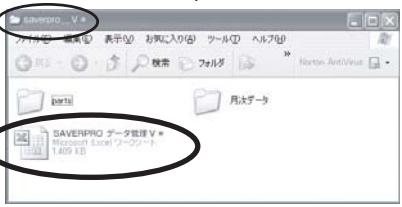
※初めてご使用になる場合にはパソコン接続ケーブルのドライバをインストールする必要があります。ドライバのインストールは、USBタイプパソコン接続ケーブルユーザーズマニュアルに基づいて行って下さい。

②データ管理ソフトの起動



●データ管理ソフトウェアをインストールしたローカルディスク（左図の場合は(C:)）をマイコンピュータから開き、saverpro_V＊と書かれているファイルをダブルクリックします。

※データ管理ソフトウェアインストール時に、他のローカルディスク（例えば(D:)など）を指定されていた場合は、そのローカルディスクを開いて下さい。

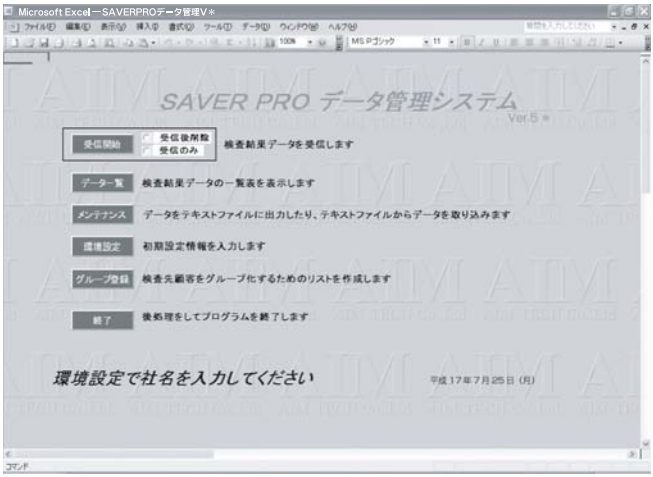


●SAVERPROデータ管理_V＊のアイコンをクリックするとデータ管理ソフトが起動します。

注意

データ管理ソフトの起動途中で左記の様なウィンドウが表示されます。
必ず マクロを有効にする(E) をクリックして起動を続行して下さい。

マクロを無効にする(D) で起動すると
データ管理ソフトは正しく操作出来なくなります。

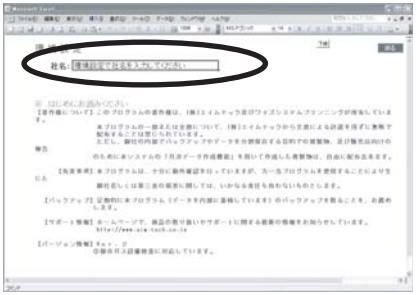


●データ管理ソフトが起動すると左図の様なメニュー画面が表示されます。

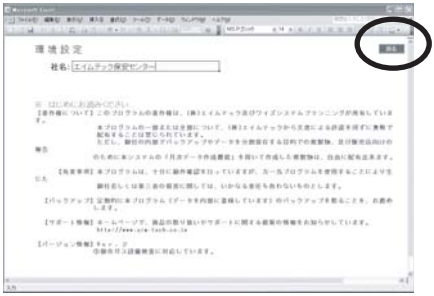
③環境設定

■初めてデータ管理ソフトを起動した場合、環境設定で社名を入力して下さい。

●メニュー画面で 環境設定 をクリックします。



●社名の空欄部分をクリックし、
社名を入力して下さい。

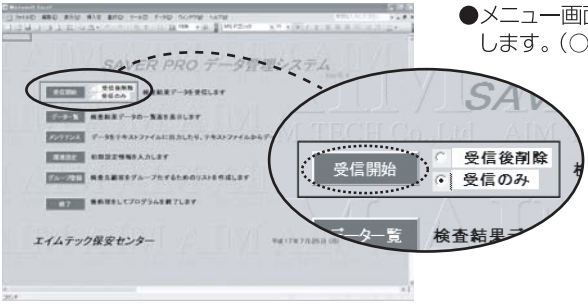


●社名入力が終了したら 戻る をクリックします。

●メニュー画面左下に社名が表示されている事を
確認します。違った場合は環境設定をもう一度
やり直して下さい。

④セーバープロⅠ･Ⅱからのデータ受信

■セーバープロⅠ･Ⅱに保存されているデータをパソコンに保存します。



●メニュー画面で受信後削除か受信のみを選択します。(○印部分をクリックして選択します。)

受信後削除を選択した場合

データ受信後にセーバープロⅠ･Ⅱに保存されていたデータは削除されます。

受信のみを選択した場合

データ受信後もセーバープロⅠ･Ⅱ内にデータは残ったままとなります。
(この場合セーバープロⅠ･Ⅱの『登録一覧』でデータ削除して下さい。)

●選択後 受信開始 をクリックして下さい。

●左図のウィンドウが表示されます。
パソコン接続ケーブルをセーバープロⅠ･Ⅱ底面に接続、セーバープロⅠ･Ⅱの電源をONにして OK をクリックして下さい。

●左図のデータ受信ウィンドウが表示されます。
待機開始 をクリックして下さい。

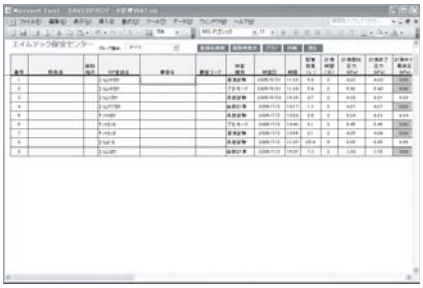
■セーバープロⅠ･Ⅱが電源投入後の『機器の状態』を表示している際は自動的に転送を開始します。それ以外の状態の際は『登録一覧』<P44/1-4>を参照しセーバープロⅠ･Ⅱ側のデータ転送操作を行って下さい。

通信が出来ない場合はCOMポート番号を確認して下さい

COMポート番号がパソコン側の認識と一致していない場合、エラーになったり、データ転送を行わないでデータ受信ウィンドウが閉じてしまう場合が有ります。その場合、最初に戻って再度データ転送の操作を行い HELP をクリックし対処方法をご参照下さい。

確認

●データ受信が開始されると左図の様にデータ受信の状態を表示します。



●正常にデータ転送が終了するとデーター覧画面を表示します。

⑤データー覧の機能

■セーバープロⅠ･Ⅱから転送された計測結果を一覧として見る事が出来ます。

●黄色のセル（販売店、削除指示、顧客名、顧客コード、住所、電話、備考）は
ユーザー側で入力（書き込み･変更）が可能です。
その他の計測結果のセルは変更が出来ません。

●配管容量･プロモードの表示はセーバープロⅠのみです。

「グループ情報」:全角20文字以内
「顧 客 名」 :全角20文字以内
「顧客コード」 :半角10文字以内
「住 所」 :全角30文字以内
「電 話」 :半角15文字以内
「備 考」 :全角30文字以内

データのエキスポートか月次データ作成処理の際に
入力文字数が右記の範囲内に制限されます。

確認

⑤-1 **販売店**（地域又はその他）**の入力**

■グループ登録が行われていると販売店のセルをクリックする事で
選択ウィンドウが表示され、入力を簡単にしてくれます。

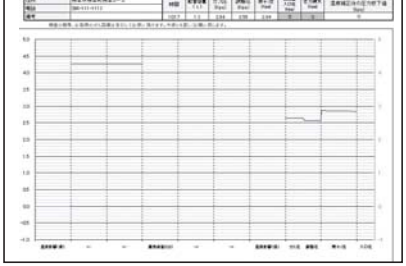
●データー覧画面における入力はできません。

●グループ登録の方法は**<P66／⑦グループ登録>**
をご参照下さい。

⑤-2 **グラフ表示**

■計測結果のグラフ表示、印字を行います。

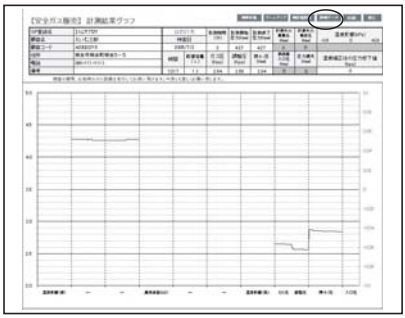
●グラフ表示させたい顧客を
選択し **グラフ** をクリック
します。
（選択するセルはどこでも構いません）



●計測結果グラフが表示されます。
グラフの詳細を見たい場合は
ズームアップ をクリックして下さい。

戻る をクリックするとデーター覧画面へ戻ります。

印刷 をクリックすると表示されているグラフを
パソコンに接続されているプリンタで印刷出来ます。



●ズームアップで計測中の詳細な変動を表示する事が出来ます。

●軸目盛設定をクリックするとグラフの計測圧力目盛幅を調整可能です。
（時間軸は調整出来ません）

戻る をクリックするとデーター覧画面へ戻ります。

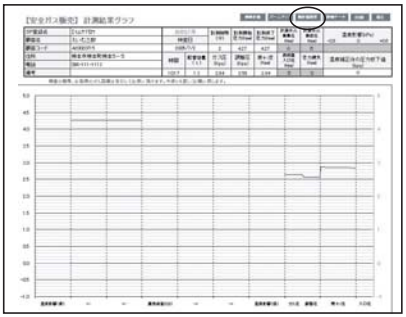
印刷 をクリックすると表示されているグラフを
パソコンに接続されているプリンタで印刷出来ます。

軸目盛設定

●計測圧力を表示させたい圧力範囲の上限値、下限値を入力して下さい。
補助線間隔も変更出来ます。
入力が終わったら OK をクリックして下さい。

新しく設定された軸目盛でグラフが表示されます。

元のグラフに戻したい場合は
標準目盛 をクリックして下さい。



●グラフ表示の状態で 詳細データ を
クリックすると計測中の圧力を数値表示にしたものに切り替ります。

●計測中の1秒毎の値を表示します。

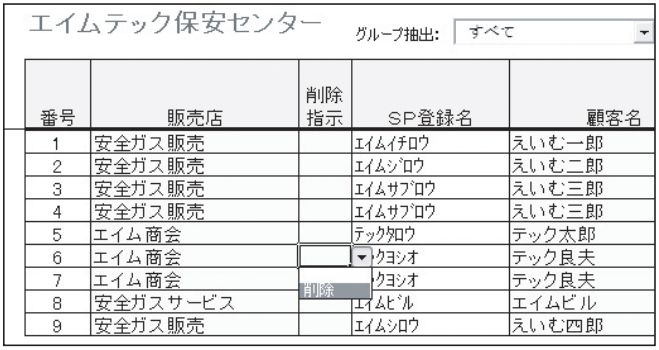
グラフ をクリックすると元のグラフ画面に戻ります。

印刷 をクリックすると表示されているグラフを
パソコンに接続されているプリンタで印刷出来ます。

戻る をクリックするとデーター覧画面へ戻ります。

⑤-3　削除指示

■不要なデータを削除（1件づつ操作が必要です。）します。



番号	販売店	削除指示	SP登録名	顧客名
1	安全ガス販売		ｴｲﾑｲﾁﾛｳ	えいむ一郎
2	安全ガス販売		ｴｲﾑｼﾞﾛｳ	えいむ二郎
3	安全ガス販売		ｴｲﾑｻﾌﾞﾛｳ	えいむ三郎
4	安全ガス販売		ｴｲﾑｻﾌﾞﾛｳ	えいむ三郎
5	エイム商会		ﾃｯｸﾀﾛｳ	テック太郎
6	エイム商会		ｸﾖｼｵ	テック良夫
7	エイム商会		ｸﾖｼｵ	テック良夫
8	安全ガスサービス		ｴｲﾑﾋﾞﾙ	エイムビル
9	安全ガス販売		ｴｲﾑｼﾛｳ	えいむ四郎

●データー覧で不要なデータの削除指示セルをクリックすると左図の様な選択ウィンドウが表示されます。
削除の欄をクリックして下さい。次回データー覧を表示した際にこのデータは表示されません。

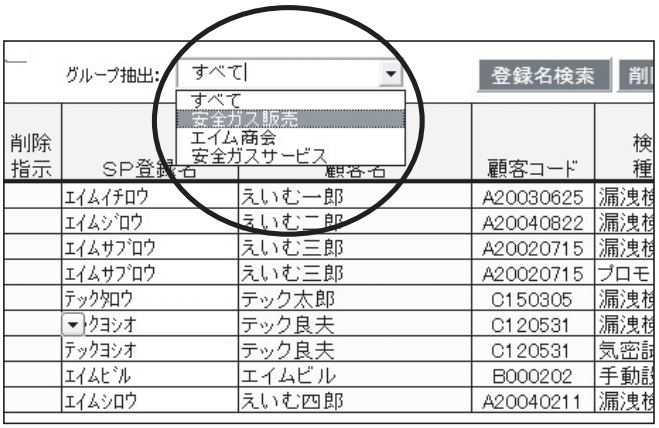
削除されたデータを再度表示させたい場合はデーター覧の **削除再表示** をクリックして下さい。

確認

削除再表示させたデータをそのまま表示させておきたい場合は、
削除指示のセルをクリックして、選択ウィンドウを表示させ、空白欄をクリックして下さい。

⑤-4　グループ抽出

■グループ登録されている特定のグループデータだけを表示出来ます。



削除指示	SP登録名	顧客名	顧客コード	検種
	ｴｲﾑｲﾁﾛｳ	えいむ一郎	A20030625	漏洩検
	ｴｲﾑｼﾞﾛｳ	えいむ二郎	A20040822	漏洩検
	ｴｲﾑｻﾌﾞﾛｳ	えいむ三郎	A20020715	漏洩検
	ｴｲﾑｻﾌﾞﾛｳ	えいむ三郎	A20020715	ブロモ
	ﾃｯｸﾀﾛｳ	テック太郎	C150305	漏洩検
	ｸﾖｼｵ	テック良夫	C120531	漏洩検
	ﾃｯｸﾖｼｵ	テック良夫	C120531	気密試
	ｴｲﾑﾋﾞﾙ	エイムビル	B000202	手動試
	ｴｲﾑｼﾛｳ	えいむ四郎	A20040211	漏洩検

●表示させたいグループをクリックして下さい。

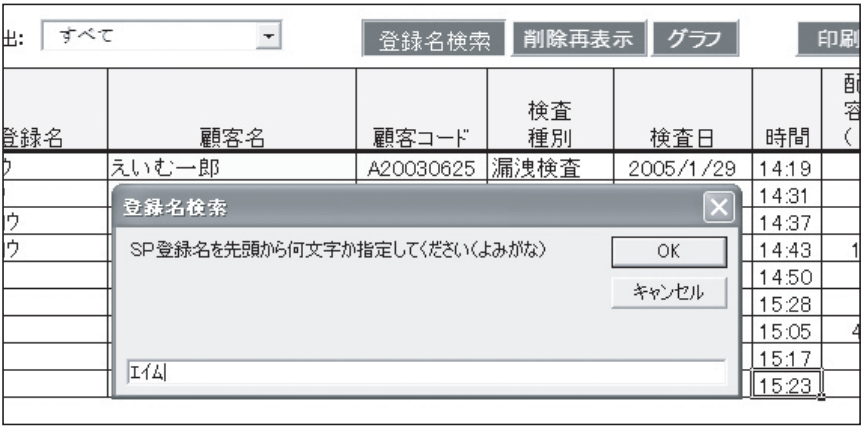
●全てのデータを表示させたい場合は『すべて』をクリックして下さい。

●グループ抽出をする為にはあらかじめグループ登録を設定する必要があります。
<P66／⑦グループ登録参照>

⑤-5　**登録名検索**

■SP登録名の先頭から何文字か指定する事で、
表示される顧客を絞り込む事が出来ます。

指定できる文字は半角カタカナか英数字のみです。



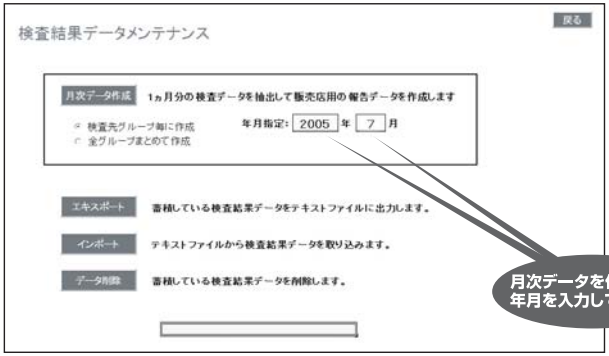
●キー入力後 OK をクリックすると該当する顧客を表示します。

● キャンセル を押すと全ての顧客データが表示されます。

⑥-1　月次データ作成

■年月を指定してグループ（販売店･地域など）毎に報告用の月次データを作成出来ます。
年月指定を変更した場合は『Enter』キーで確定してから 月次データ作成 ボタンを
クリックして下さい。

●月次データを「検査先グループ毎に作成」か「全グループまとめて作成」かを選択します。
（○印部分をクリックして選択します。）



◆検査先グループ毎の作成を選択した場合

データー覧で指定された
グループ毎に月次データが
作成されます。

◆全グループまとめて作成を選択した場合

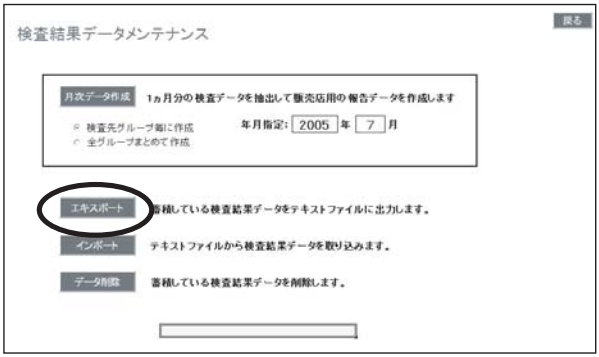
指定年月分の全ての月次データが
まとめて作成されます。

月次データは
データ管理システムをインストールしたローカルディスク
（通常はC）のフォルダ、saverpro_V*内に作成されます。

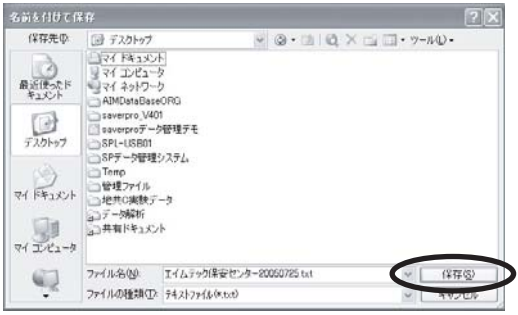
⑥-2　エキスポート

■データー覧に保存してあるデータをテキストファイルとして出力します。
データのバックアップ、データの集中管理、パソコンどうしのデータ交換に使用します。

実施 **定期的なバックアップをお願いします。万が一パソコンを操作ミスした場合などにデータを再現する事が可能になります。**
★複数台のパソコンでデータ管理システムをご利用の場合、この機能を使って管理を統一する事も可能です。



エキスポートボタン をクリックします。



◆ファイル名を付けて保存のウィンドウが表示されます。保存先を選択し、 保存 をクリックします。

実施のこと **データのバックアップの場合、CD−RW、外付ハードディスクドライブ等の外部記録メディアへ保存してください。**

★ファイル名は社名+日付
(例:エイムテック保安センター20050725)で自動的に作成されますので、通常はそのままで『保存』をクリックして下さい。

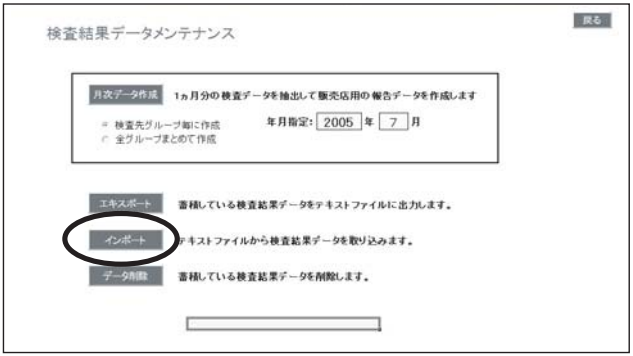
●データの出力が完了すると左図の様に『検査データの出力を完了しました』の表示が出ます。

戻る をクリックしてメニュー画面へ戻して下さい。

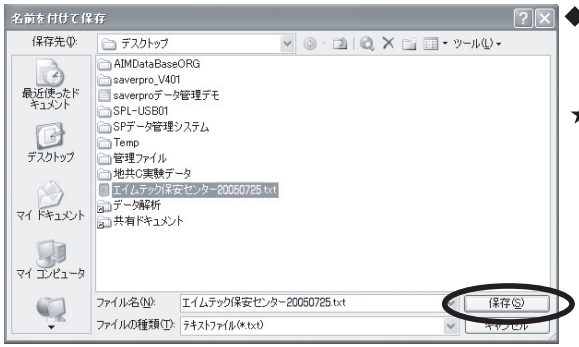
⑥-3　インポート

■エキスポート機能を使用して作成されたデータのテキストファイルを取り込みます。
バックアップされたデータの取り込み、データ集中管理に使用します。

★パソコンの操作ミスなどで、データ管理システムのデータを消してしまった場合などにデータがバックアップされていると再現が可能となります。
★複数台のパソコンでデータ管理システムをご利用の場合、この機能を使って管理を統一する事も可能です。



インポートボタン を
クリックします。



◆インポートするテキストファイルをクリックして確定し **保存** をクリックします。

★ファイルの種類はテキストファイルとなっており通常は、社名+日付
（例:エイムテック保安センター20050725）というファイル名になっています。
バックアップデータでCD-RW、外付ハード、ディスクドライブ等の外部記録メディアに保存してある場合は、保存先を指定して下さい。

●データ取り込みが完了すると左図の様に『検査データの取り込みを完了しました』の表示が出ます。

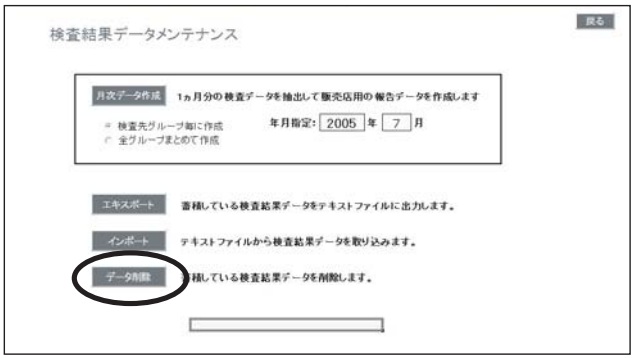
戻る をクリックしてメニュー画面へ
戻して下さい。

⑥-4　データ削除

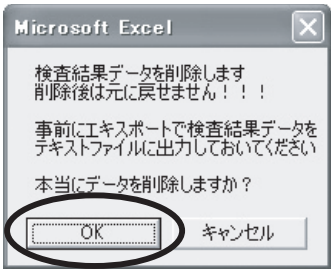
■計測データを削除する際に使用します。

データ削除の前に必ずエキスポートでデータを保存して下さい。 ⑥-2参照
データを削除してしまうとデータ管理システムに保存されているデータは全て消去されます。

確認



データ削除 をクリックします。



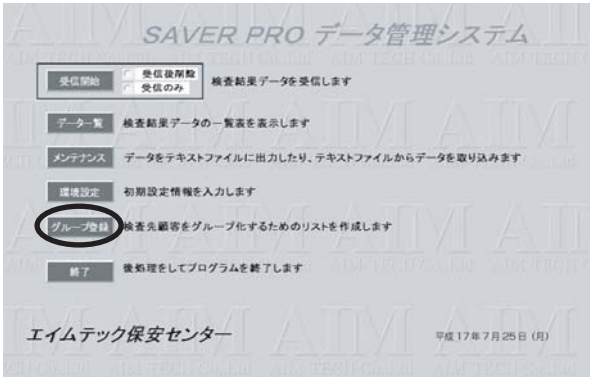
●左図の様なデータ削除を確認する
ウィンドウが表示されます。
OK をクリックするとデータ
の削除が開始されます。

●データの削除が完了すると左図の様に
『データ削除しました』の表示が出ます。

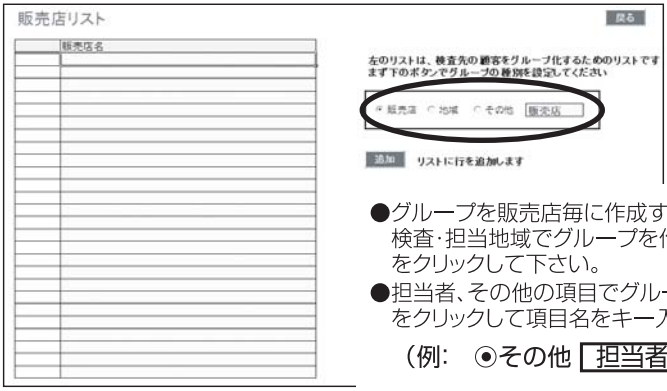
戻る をクリックしてメニュー画面へ
戻して下さい。

⑦ グループ登録

■データー覧に登録されている顧客データを検査先･地域等でグループ化する為のリストを作成します。(月次データの作成や顧客検索などが簡単になります。)



メニュー画面で
グループ登録 をクリックします。



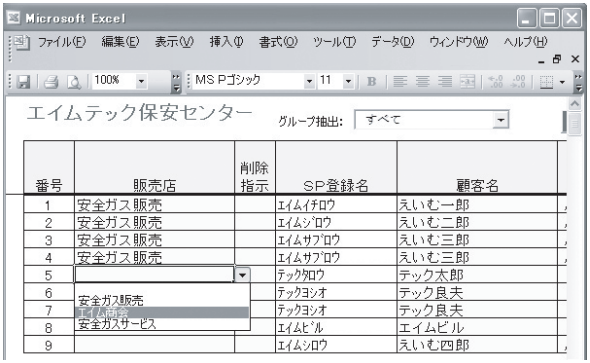
●グループを販売店毎に作成するウィンドウに切り替ります。
検査･担当地域でグループを作成したい場合は ○地域
をクリックして下さい。

●担当者、その他の項目でグループ化したい場合は ○その他
をクリックして項目名をキー入力して下さい。

(例: ◉その他 担当者)

●リストに販売店名･地域などをキー入力して下さい。
入力後は『Enter』キーで確定して下さい。全て入力が終了したら 戻る をクリックして下さい。

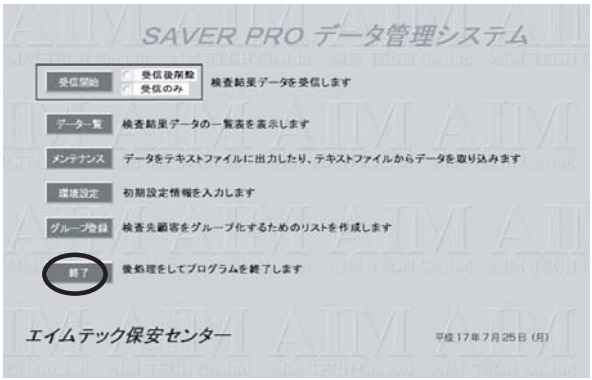
●リストが足りなくなった場合は 追加 ボタンをクリックし、**追加する行数を指定して下さい。(10行以内)リストに行が追加されます。**



●データー覧で販売店(もしくは地域等)のセルをクリックすると左図の様な選択ウィンドウが表示される事を確認して下さい。
名称等が間違っていた場合は再度グループ登録をやり直して下さい。

⑧ 終了

■セーバープロデータ管理システムを終了します。



メニュー画面で
終了 をクリックします。

●左図の様な保存確認のウィンドウが表示されますので はい(Y) をクリックするか『Enter』キーを押して下さい。自動的に終了します。

データ管理システムの終了時には、必ず はい(Y) を選択して終了して下さい。
いいえ(N) を選択して終了された場合、データの登録が不完全になり、
次回データ管理システムを起動した際に、データが表示出来なくなる場合があります。

必ず実施

4.困った時!こんな場合は?

NO		質　問	回　答　・　ご確認ください	参照ページ
1	本　体	POWERボタンを押しても電源が入らない。	①電池は本体に正しく組み込まれていますか?付属の単三型アルカリ乾電池6本を極性(＋／－)に注意して本体に組み込んでください。 ②電池を使い切った状態になっていませんか?→新品乾電池に交換してください。	P5
2	本　体	電池の消耗が激しい。	①長期間使用されず過放電させていませんか? ②電池の寿命の可能性があります。 計測可能な回数が10回以下の場合には新しい電池に全て交換してください。	
3	本　体	セーバープロⅡが計測できる配管容量は何ℓか。	セーバープロⅡで計測対象となる配管容量は約50ℓまでです。 これより大きな配管(病院・学校等)での計測については別途弊社ユーザーサポートまでご連絡ください。	P9
4	本　体	本体を落としてしまった。	①液晶部分や本体のケースが割れていないか確認してください。 ②電源を入れてみて液晶画面がきちんと表示されているか確認してください。 ③漏洩していない配管を使用して漏洩試験を行い、本体から漏洩していないか確認してください。 ④③の後の計測結果登録時に操作部のボタンが正常に働くか確認し、内蔵プリンタで正しく印字できるか確認してください。 ⑤正しく動作しない場合は弊社ユーザーサポートまでご連絡下さい。	
5	本　体	画面の表示が黒くなって(もしくは薄くなって)文字が読めない。	直射日光等により液晶画面が上がってしまったことが原因です。液晶画面のコントラスト調整を行ってみてください。それでも改善しない場合は、本体を日陰で冷ましてください。	P11
6	本　体	USBケーブル(オプション品)が本体側面のコネクタ接続口に差し込めない。	ケーブルのコネクタには上下があります。 コネクタに「PUSH」と書かれている側を上面にして差し込んでください。また、コネクタが破損しますので無理に差し込まないでください。	P54
7	本　体	セーバープロⅡで都市ガスの漏洩試験はできるのか?	セーバープロⅡはLPG専用ですので都市ガスの漏洩試験はできません。 本体のプログラムが違いますので、正しい計測ができません。 都市ガス用のセーバープロⅡにつきましては弊社ユーザーサポートへご相談下さい。	
8	エラー表示	「!12ヶ月点検を実施して下さい。」の表示が出た。	圧力校正予定日を過ぎています。圧力校正を行ってください。	P46～P48
9	エラー表示	「!機器の設定をして下さい。」の表示が出た。	セーバープロⅡの内部メモリーに登録されている設定値が正しくありません。弊社ユーザーサポートまでご連絡ください。	
10	エラー表示	「メモリー不足です。計測結果の登録ができません。」の表示が出た。	セーバープロⅡに登録されたデータが一杯です。(最大25件の計測結果データを登録)計測結果をパソコンへ転送して(オプション)データをクリアするか、「登録一覧」の「データ削除」機能を使って古いデータを削除(全件削除、又は1件削除)する事で次の計測が可能となります。	P44
11	エラー表示	「!バッテリーの交換が必要です。」の表示が出た。	組み込まれている単三アルカリ乾電池の寿命です。新しい乾電池へ全て交換してください。 そのまま使用されますと動作が停止する事があります。	

NO		質　問	回　答　・　ご確認ください	参照ページ
12	エラー表示	「!バックアップ電池の交換が必要です。」の表示が出た。	セーバープロⅡ本体内部に組み込まれているバックアップ電池の寿命です。 バックアップ電池の交換が必要ですので、弊社ユーザーサポートまでご連絡ください。	
13	エラー表示	「大気圧ゼロ点調整! エラー」の表示が出た。	山間部など気圧の変動が激しい場所、標高が約1000mを越える場所における計測などで、まれにこの様なエラーが表示される場合があります。＜1-5＞機器の設定メニューの「機器のゼロ点」を選択し機器のゼロ点補を行ってください。	P45
14	エラー表示	「温度補正後の圧力低下! 温度影響の結果より判断できません」と表示が出た。	試験前後の温度影響計測で、その結果が前後逆傾向（例えば、前計測は圧力上昇、後計測は圧力下降）であった場合に表示されます。急激な天候の変動の可能性があります。	
15	エラー表示	「!ガス圧　異常」という表示が出た。	ガス圧計測結果が基準圧力（2.0～4.0kPa）内にありません。配管内の圧力が大気圧状態の際にボンベのバルブや中間コックを急に開けると、一時的に圧力が高くなる事があります。バルブをゆっくりと開けてください。	
16	エラー表示	「!調整圧　異常」という表示が出た。	調整圧力計測結果が基準圧力（2.3～3.3kPa）内にありません。	
17	エラー表示	「!閉そく圧力　異常」という表示が出た。	閉そく圧力計測結果が基準圧力（調整圧力以上～3.5kPa以下）内にありません。	
18	エラー表示	「!入口圧　異常」という表示が出た。	燃焼器の入口圧力計測結果が基準圧力（2.0～3.3kPa）内にありません。	
19	エラー表示	「!圧力損失　異常」という表示が出た。	計測した調整圧と燃焼器の入口圧力の差が0.3kPaを越えています。	
20	機器の設定	漏洩試験の時間を変更する。	試験開始前に計測時間を2分又は5分に設定します。	
21	機器の設定	例示基準通りに調整器の圧力検査を行いたい。	＜1-5＞機器の設定の「検査条件設定」で調整器検査を＜例示＞に選択してください。	P45
22	操作方法	漏洩試験を行いたい。	「自動計測」か、手動計測の「漏洩試験」を選択してください。	P16、P35
23	操作方法	気密試験を行いたい。	手動計測の「気密試験」を選択してください。	P36
24	操作方法	調整圧力の計測を行いたい。	「自動計測」か手動計測の「調整器圧力検査」を選択してください。	P16、P42
25	操作方法	閉そく圧力を計測したい。	「自動計測」か、手動計測の「調整器圧力検査」を選択してください。	P16、P42
26	操作方法	燃焼器の入口圧力を計測したい。	「自動計測」か、手動計測の「調整器圧力検査」を選択してください。（検査条件設定で＜例示＞を選択されている場合）	P16、P42 P45
27	操作方法	圧力損失の計測を行いたい。	「自動計測」か、手動計測の「調整器圧力検査」を選択してください。（検査条件設定で＜例示＞を選択されている場合）	P16、P42 P45
28	操作方法	ガス圧で漏えい試験を行いたい。	「自動計測」か、手動計測の「漏洩試験」を選択してください。（検査条件設定で加圧方法を＜ガス＞で選択されている場合）	P16、P35 P45

NO		質　問	回　答　・　ご確認ください	参照ページ
29	操作方法	長時間測定を行う。	手動計測メニューの「手動設定計測」を選択して、計測時間を任意に設定（最大1時間59分）して計測してください。ただしこの場合は、温度補正は行われません。	P42
30	操作方法	50Lリットル以上の配管で検査をしたい。	手動計測メニューの「手動設定計測」を選択して、計測時間を任意に設定し、加圧してから計測してください。ただしこの場合は、温度補正は行われません。	P42
31	操作方法	配管内の圧力を知りたい。	手動計測メニューの「現在の圧力計測」で計測します。	P43
32	操作方法	マイコンメータが遮断してしまった。	計測中、マイコンメータが遮断する可能性があります。 ①計測を調整器出口の点検口で行っている場合。計測を中断し、マイコンメータの復帰操作を行ってください。マイコンメータ復帰後最初から計測をやり直してください。 ②計測をマイコンメータ以降の点検口で行っている場合。本来の測定はメータ以降の測定となるので、測定はそのまま続行して頂き、調整器の圧力検査時に復帰します。もし、メータも含めて測定をされたい場合は一度セーバープロⅡを外してメータを復帰し、計測をやり直ししてください。	
33	操作方法	マイコンメータを遮断させないようにする為には?	計測中マイコンメータが遮断する可能性があります。マイコンメータを遮断させないようにする為には急激に圧力を低下させないことが重要です。 ①メーターより上流の調整器側点検口で計測を行い、排気もその点検口で行う。 ②減圧の際、燃焼器で緩やかに燃焼させる。 ③検査の前にあらかじめ高圧部のガスを抜いておく。	
34	操作方法	計測中に大気圧まで減圧するという操作があるが、配管内のガスを全部抜くという事か?	ガスを全て抜くと言う事ではありません。配管内の圧力を大気圧と同じ圧力にするという意味です。コンロなどで残ガスを全て燃焼させて大気圧と同じ圧力状態にします。温度影響を測定する為に必要です。	
35	操作方法	漏えい試験前後の温度影響計測時に、大気圧状態にする理由は?	①計測時に配管内に圧力がかかったままでは圧力の低下が温度影響によるものか漏洩によるものかの判断が出来ない為です。 ②中間ガス栓が無い配管においては、ボンベのバルブを閉じて計測を行いますが、高圧部に圧力がかかった状態で低圧部の漏えい試験を実施すると、低圧部で漏えいがあっても調整器を通して高圧部からガスが供給されてしまい、漏えいによる圧力低下が検知できなくなる為です。	
36	操作方法	排気バルブで減圧する際に現在の圧力表示に−（マイナス）表示がされて、次の操作ができない。	計測開始時の大気圧のゼロ点がきちんと調整されていない可能性があります。 ①検知ホースを接続したまま大気圧ゼロ点調整を行っていませんか? ②高温・多湿な場所に保管された後使用されていませんか? →セーバープロⅡ本体自体が温度影響を受けた場合、自動補正しますが、高温・低温になりすぎると正常に機能しない場合があります。	P45
37	操作方法	漏洩試験時は加圧を空気で行うが、配管内に空気が入る事になるので計測終了後にガスへの置換が必要では?	配管内に送り込まれる空気は微量です。そのままガスを通じて使用されても失火する事はありません。ただし、同じ配管で5回以上空気で加圧して計測を行った場合はガスへの置換作業を行ってください。	
38	操作方法	顧客名登録は何文字まで可能か?	15文字までです。数字、カタカナ、アルファベット（大文字）が入力可能です。（ただし印字されません。）	P32

NO		質　問	回　答　・　ご確認ください	参照ページ
39	セーバープロ 計測データ	セーバープロⅡに登録されている計測結果が25件になった。26件目は測定可能か?	26件目の測定は出来ますが、セーバープロⅡの最大計測結果登録件数は25件ですので、26件目の計測結果登録は出来ません。(古いデータ計測データへの上書きも行えません。)計測結果をプリンタで印字、またはパソコンへ転送(オプション)してデータを削除するか、「登録一覧」の「データ削除」機能を使って古いデータを削除(全削除、又は1件削除)する事で次の計測結果登録が可能となります。	
40	セーバープロ 計測データ	セーバープロⅡは法律上、認められているのか?	セーバープロⅡは「電気式ダイヤフラム式自記圧力計」として液化石油ガス法に則った気密・漏洩試験を行う機器して認められています。	
41	セーバープロ 計測データ	セーバープロⅡのデータは保安点検用のデータとして有効か?	パソコンで管理されている試験データは、試験時にプリンタでプリントアウトされた試験データともに有効です。液化石油ガス法に基づき自己保管をお願いします。	
42	セーバープロ 計測データ	プリントアウトした検査結果は保安点検用として有効か?	有効です。保安検査の計測データはあくまで検査員が自己管理するものです。(立ち入り調査の際等に提出が求められた際に提出します。)また、パソコンへ転送しての管理も出来ます(オプション)ので、データ管理システム上での管理もお勧めいたします。	
43	セーバープロ 計測データ	セーバープロⅡの自動計測において、温度補正後の圧力低下値が−(マイナス)表示しているのに、調整器圧力検査後、「調整圧、閉そく圧、入口圧、圧力損失、全て異常がありませんでした。」と表示が出るのはなぜか?	「調整圧、閉そく圧、入口圧、圧力損失、全てが異常がありませんでした」というのはあくまで調整器圧力検査に関してのみの計測結果です。よって温度補正後の圧力低下があっても、調整器圧力検査で異常がなければこのような表示が出ます。	
44	セーバープロ 計測データ	温度補正後の圧力低下が−(マイナス)表示になった場合には?	漏えいの疑いがあります。漏えい箇所の特定、修理等の作業を実施してください。	
45	セーバープロ 計測データ	漏えい箇所の判断はできないか?	通常の漏えい試験を行い、「温度補正後の圧力低下」が−(マイナス)表示した場合はすべての燃焼器側のガス栓を閉めて当該配管のみの状態にし、漏えい試験を行ってください。試験結果において温度補正後の圧力低下がなかった場合は、燃焼器側のガス栓以降からの漏えいが考えられます。まずは、当該配管側に問題があるかどうかを確認しましょう。	P9
46	セーバープロ 計測データ	同じ環境下でもセーバープロⅡの検査結果がすべて違う。どのように判断すればよいか。	同じ環境下でも実際の気温はめまぐるしく変化しています。配管が部屋の中を通ったり、露出配管の比率が高い場合は温度変化受けやすい為、計測結果が全て同じになるとは限りません。	
47	セーバープロ 計測データ	!温度影響の結果より判断できませんという表示が出た。どういう状態か?	漏えい検査前後の温度影響測定時に圧力が前と後ろ、プラス方向で逆になった場合、温度補正が出来なくなります。(温度が急激に変化している事が考えられます。再計測を実施してください。)	
48	データ管理 システム (オプション選択時)	データ管理システムを起動したが操作できない。	①データ管理システムの起動時に「マクロを有効にする」を選んでますか。 ②マクロセキュリティが「高」だとデータ管理システムが動作しません。マクロセキュリティの設定の変更はExcelの「ツール」から「オプション」を選択、「セキュリティ」の「マクロセキュリティ」を「中」以下に設定し、再度データ管理システムを起動させてください。	P55

NO		質　問	回　答　・　ご確認ください	参照ページ
49	データ管理システム（オプション選択時）	顧客コードは何桁まで表示できるか?	表示されるのは半角で10桁、全角では6桁です。	P58
50	データ管理システム（オプション選択時）	「データー覧」画面においてパソコン側から入力できる項目は。	「データー覧」画面の黄色のセル部分が入力可能です。販売店・削除指示についてはリストボックスから選択、顧客名・顧客コード・住所・電話・備考欄については直接入力することができます。	
51	データ管理システム（オプション選択時）	エキスポート・インポートで何ができるか?	計測結果のバックアップ、データの一括管理や、電子メールを利用したデータのやり取りなどが簡単に行えます。	P63、P64
52	データ管理システム（オプション選択時）	エキスポート・インポートが出来ない。	saverpro_V***のフォルダ内に「parts」「月次データ」「SAVERPROデータ管理V*」の有無を確認してください。「parts」「月次データ」を削除したり、「SAVERPROデータ管理V*」のみを別の場所（デスクトップ上など）にコピーして使用した場合、エキスポート・インポート機能が正常に動作しない場合があります。	P63、P64
53	データ管理システム（オプション選択時）	USBポートがパソコンに無い	シリアルポートを使用する事も可能です。弊社ユーザーサポートへご相談ください。	
54	データ管理システム（オプション選択時）	セーバープロⅡからデータ管理システムに計測結果データを転送できない。	①USBケーブルは正しく接続されていますか? ②セーバープロⅡの電源がONになっていて「機器の状態」を表示しているか「登録一覧」において手動にて転送を行ってください。 ③USBケーブルが違うCOMポートの番号に設定されている可能性があります。スタート＞コントロールパネル＞システム＞ハードウェア＞デバイスマネージャ＞ポート（COMとLPT）の設定で、「AIM TECHSPL−USB01」が認識されているポート番号の設定を確認してください。データ管理ソフトのデータ受信のウィンドウで「COMポート番号」の設定を上記で確認した番号を入力してください。	
55	データ管理システム（オプション選択時）	データの削除について。	①データの全削除･･･ システムに保存しているデータを完全に削除するときには「メンテナンス」メニューの「データ削除」で削除できますが、削除を行うとデータは復帰できないため、事前に「エキスポート」機能を使用して必ずバックアップを取ってください。 ②データの一時削除･･･ 「データー覧」を開き、各計測結果の「削除指示」のセルを選択するとリストボックスが開きます。ここで「削除」を選択します。(ただしデータとしては残っているので、「削除再表示」で削除したデータを再度一覧表に表示させることもできます。)	P60、P65
56	データ管理システム（オプション選択時）	SP登録名を修正したい。	計測後、セーバープロⅡの「顧客名登録画面」において「決定」すると、その後セーバープロⅡ、データ管理システムでは登録名を修正出来ません。 顧客名入力の際は、セーバープロⅡ側のカーソルを「決定」に合わせ、「SET」ボタンを押す以前までは顧客名修正ができますので、間違いがないか再度ご確認ください。(「決定」を選択して「SET」を押してしまうと修正ができません。)もし間違えた場合は、データ管理システムの「データー覧」で顧客名の欄に正しく入力を行い、備考欄に注意書きを付け加えておきましょう。	

NO		質　問	回　答　・　ご確認ください	参照ページ
57	データ管理システム（オプション選択時）	セーバープロⅡからデータ管理システムへの計測結果の転送方法は。	取扱説明書P57「セーバープロⅡからのデータ受信」を参照ください。	P57
58	データ管理システム（オプション選択時）	セーバープロⅡのデータの保存方法について。	「メンテナンス」から「エキスポート」を選択し、保存先を指定してください。定期的にFD、CD-RW、外付けハードディスクドライブ等の外部記憶メディアに保存される事をお勧め致します。	P63
59	データ管理システム（オプション選択時）	月次データ作成はどんなときに使用するのか?	月次データ作成は、年月を指定してグループ（販売店、地域、担当者など）ごとにまとめた報告用データを作成したり（検査先グループ毎に作成）、グループに関係なく月毎に一括してデータを保存（全グループまとめて作成）する事も出来ます。	P62
60	データ管理システム（オプション選択時）	月次データが作成できない。	saverpro_V***のフォルダ内に「parts」「月次データ」「SAVERPROデータ管理V*」の有無を確認してください。「parts」「月次データ」を削除したり、「SAVERPRO_V***データ管理V*」のみを別の場所（デスクトップ上など）にコピーして使用した場合、月次データが作成できない場合があります。	
61	データ管理システム（オプション選択時）	エラー表示された計測データはデータ管理システム上どの様に表示されるのか?	判定結果欄に「温度影響計測結果が前後逆傾向の為測定不能」もしくは「温度影響計測結果が過剰変化の為測定不能」という表示が出ます。	
62	データ管理システム（オプション選択時）	計測データを販売店、地域ごとなどに表示させるには。	①販売店、地域名等の登録 （1）まず、販売店、地域等の名前を「グループ登録」のリストに登録します。この際にグループの種別を設定して下さい。 （2）（1）を登録した後、「データ一覧」に戻って、グループの種別で設定したリストボックスを開くと（1）で登録された販売店・地域の名前が表示されます。 （3）ここで、販売店・地域等を選択します。 ②データ抽出 （1）「グループ抽出」のリストボックスを開き、販売店・地域等名を選択します。 （2）（1）で選択されたデータのみが表示されます。	P66 P58
63	データ管理システム（オプション選択時）	顧客検索を行うには。	「データ一覧」の「登録名検索」から、検索できます。SP登録名の欄から検索しますのでSP登録名の先頭から何文字かを指定して下さい。（読み仮名）	P61
64	データ管理システム（オプション選択時）	顧客コードから検索するには。	顧客コードからの検索は出来ません。	
65	データ管理システム（オプション選択時）	顧客名から検索するには。	顧客名からの検索は出来ません。	
66	データ管理システム（オプション選択時）	セーバープロⅡのデータ管理ソフトの動作環境。	OSはWindows98SE以降、Excelは'97以降の製品でUSBポートが使用可能である事。	

NO		質　問	回　答　・　ご確認ください	参照ページ
67	メンテナンス	セーバープロⅡの12ヶ月校正は、自社で行う事が可能か?	気密・漏洩試験用GLT-SPLP1は最小目盛0.01kPa以下の表示が可能な電気・電子式マノメータもしくは、これと同等以上の精度を有する圧力計が必要です。お近くの工業試験場などで校正を行っていただくか、校正期限内のセーバープロを基準器として、校正を行って下さい。弊社でも有料で校正サービスを行っております	P46～48
68	メンテナンス	12ヶ月校正の際の注意点は?	セーバープロⅡの校正は12ヶ月に1回行ってください。基準器との圧力差が±0.03kPa以内であれば、校正の必要はありません。 ただし、校正が不要である場合でも「校正値登録」を行ってください。(校正値登録を行わないと12ヶ月点検予定日が0のままとなります。)	P46～48
69	プリンタ	プリンタで再印字するには。	①メニュー画面から「登録データ」を選択 ②「顧客選択」で印字したいお客さまのデータを表示します。 ③「登録データ」を選択し、検査結果の表示画面が表示されたら「終了」を選択してください。 ④印字するかをセーバープロⅡが聞いてきます。「はい」を選択して「SET」を押すと検査結果が印字されます。	
70	プリンタ	プリンタで印字ができないときには。	①プリント用ロール紙は正しくセットされていますか? ②インクの消耗が考えられます。 ③プリンター動作時には、電力を多く消費するため、電池の急激な起電力低下がおきることがあります。このため、液晶画面で電池残量があると表示していたとしてもプリンター印字がストップする場合があります。新しい電池に交換してください。	
71	プリンタ	計測データの結果の印字が薄い。	インクの消耗が考えられます。	
72	オプション品	計測データをパソコンへ転送したい。	計測データをパソコンへ転送するには、USBケーブル(オプション品)が必要です。 「標準タイプ」を既にご購入のお客様はセーバープロⅡのプログラムを変更し、USBケーブルを別途ご購入頂く必要がございます。(有料)	
73	オプション品	USBケーブルを使用できるようにしたい。	付属の「USBタイプパソコン接続ケーブルユーザーズマニュアル」をご参照の上、ご使用のパソコンのOSに合わせて、インストールを行ってください。	

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買上げの際お受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保管してください。
- 保証期間は、お買上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪い時はまず確認！

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合が悪い時は

お買上げ店または「エイムテックユーザーサポート」にご相談ください。

お使いになってご不明な点、技術的なご質問、故障と思われる時のご相談は下記までお問合せください。

AIM 株式会社エイムテック
AIM TECH Co.,Ltd
電話：096-286-5130
受付時間：月～金
午前9時30分から午後5時まで
（祝日、年末年始、弊社休日を除く）

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 品名・形式：セーバープロ・GLT-SPLP1
- ご相談内容：できるだけ詳しく
- お買い上げ年月日

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

セーバープロⅡ

品名	セーバープロⅡ及びセーバープロⅡパソコン転送タイプ
型式	GLT-SPLP1（パソコン転送タイプはGLT-SPLP1-PC）
品目	液化石油ガス用電気式ダイヤフラム式自記圧力計
用途	気密・漏洩試験及び調整器の圧力計測
測定対象流体	LPガス・空気
測定圧力範囲	−0.5kPa～10.0kPa
最小表示目盛	0.01kPa
表示	液晶パネル128×64ドット 反射型（ダークグレー）バックライト無し
加圧方法	単球式手動ポンプによる
減圧方法	手動バルブによる
電源	単三アルカリ乾電池　6本
使用温度	−10～+40℃
使用湿度	30～80%RH（ただし結露なきこと）
保存温度	−20～+60℃
最大印加圧力	19.6kPa
外形寸法	H153×W183×D40（mm）突起物含まず
質量	770g以下（電池を含む本体のみ）
プリンター	印字方式：活字式シリアルプリンタ 紙送り方式：フリクション方式 記録紙：58mm幅専用ロール紙 インキング：インクロール方式（単色） 印字保証温度：5～40℃
インターフェース	専用USBタイプパソコン接続ケーブル（注1）
データ転送方法	付属　セーバープロ　データ管理システムによる（注1）
パソコン作動環境	Microsoft Windows 98SE 及び Microsoft Excel 97 以降のUSBポートが使用可能なパソコン（注1）
検知ホースの接続	両端迅速継手式検知ホース
カレンダー	西暦、月日、24時間時計式　うるう年補正機能付き
記憶容量	25件分の検査結果の保存及び1件・全件削除方式
付属品	両端迅速継手式検知ホース、単三アルカリ電池6本、取扱説明書、保証書、ユーザー登録書、単球式手動ポンプ、セーバープロデータ管理システムソフト（注1）パソコン接続ケーブル（注1）

注1：パソコン転送タイプを選択した場合のみ有効

AIM 株式会社エイムテック
AIM TECH Co.,Ltd
〒861-2202　熊本県上益城郡益城町田原 2081-10（熊本テクノリサーチパーク内）
財団法人 くまもとテクノ産業財団 電子応用機械技術研究所内
TEL.096-286-5130　FAX.096-286-5147
URL http://www.aim-tech.co.jp　E-mail info@aim-tech.co.jp

性能改善のため、製品の仕様等を予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。最新情報については弊社ホームページにて随時更新しております。